

江戸名所圖會

十一

農務省
圖書
第 〇 冊
共 〇 冊

大政官文庫
和書門
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
二 〇 九 〇 九 〇 九 〇 九 〇 九 〇

内閣文庫
和書
二 三 八 七
二 〇 九 〇 九 〇 九 〇 九 〇 九 〇

内閣文庫	
番號	和 11387
冊數	19 (10)
函號	174 31



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



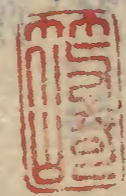
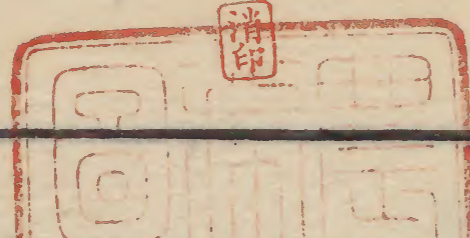
© Kodak, 2007 TM: Kodak



江戸名所圖會卷之四

天權之部 目錄

市谷八幡宮 いちややまはまの宮
 藥王寺 やくわうじ
 大窪映山紅 おほくぼえいざんこう
 澄明神祠 じやうめいしんじ
 中睦成願禪寺 なかつ睦成願ぜんじ
 寶仙寺 ほうせんじ
 阿比谷神明宮 あひやがしんめい宮
 慈宏寺 じこうじ
 金井橋 きんせいばし
 神樂坂 かぐらざか
 間魔堂 ままどう
 藥王寺 やくわうじ
 大窪天満文 おほくぼてんまんぶん
 自證院 じじやういん
 淀橋 いづみばし
 中睦長者昌蓮墓 なかつ睦長者昌蓮ぼ
 堀の内妙法寺 ほりの内めうぽうじ
 井頭辨財天宮 いづみづかひべんざいてん宮
 津久戸の神社 つゆくほのしんじ
 若文八幡宮 わかつぶんはまの宮
 松原寺 まつはらじ
 月桂寺 つきかきじ
 七面大の神社 ななめんおほいのしんじ
 西遊寺 さいゆうじ
 安養寺 あんやうじ
 談行明神社 だんぎやうめいしんじ
 圓照寺 えんてうじ
 中睦七塔 なかつ睦七た
 桃園觀音堂 てんぐんくわんおんどう
 幡ヶ谷不動堂 はたがやふどう堂
 逢坂 あさか
 牛込城址 うしごめじ
 赤城明神社 あかぎめいしんじ



涉殿山 大友松 幸國寺 感通寺 寶泉寺 百八塚 荒園山 氷川明神社 落合土橋 本花園神社 瀨松寺 宗柏寺 願満祖師堂 三石傳來子手親世音 高田八幡宮 高田稻荷社 高田富士山 高田馬場 高田七面堂 南花院 七曲坂 金栄院 一枚岩 豊後小幡從大友義延舊領之地 宗冬寺 早稲田神の文 赤城の神舊地 子手院 禁閑寺 戸塚 和戸山 高田七面堂 南花院 七曲坂 金栄院 一枚岩

落合堂 金剛寺 大洗堰 駒留橋 関八幡宮 大慈寺 難司谷鬼子母神堂 法明寺 大正院 蓮成寺 小石川 光圓寺 牛天神社 道祖神祠 新隠庵 小村厚吟翁別荘地 大塚 氷川神社 水神社 道山幸神祠 本傳寺 室鳩巢先生墓 護持院 法立院 本納寺 坂切不動尊 目白不動堂 八幡宮 護坊の神社 大日堂 坂切不動尊 目白不動堂 八幡宮 護坊の神社 大日堂

本末茶師如來

宗慶寺

淨茶園

祥雲寺

空量院

白山神社

菓鴨美性寺

療病院

氷川明神社

十羅刹女堂

板橋驛

廣申塚

猫狸塚

十羅刹女堂

木下稻荷祠

板橋系

宗蓮寺

子家城址

慈母權現宮

清水坂

法衣茶師如來

大堂

松月院

一夜塚

西香園福寺

子家古城址

次上觀音堂

赤塚明神祠

十羅刹女宮

三寶寺

三寶寺池

練馬長命寺

親音寺

氷川明神祠

練馬城址

愛宕權現宮

石井井城址

石井井神祠

練馬城址

照日塚

藤折里

宗墨者

内川

立地舊跡

龜波田彈正回館地

西苑院

百八位住持古碑

阿蘇明神祠

野火留

平林禪寺

八圓山

九十九塚

狭山の池

安松長源寺

砲間齋友墓碑

將軍塚

曼荼羅淵

水原寺

山に觀音堂

久米川

山に星

小倉差京

箱の池

小野天神社

新地志善居住地

勝樂寺

所澤回廊花

堀兼井

東近寺

戸田川渡

羽黒權現宮

新光寺

藥王寺

新曾好顯寺

治川義行居城旧址

燒米坂

子安清水

宮本敏川神社

六山神社

彌神社

大宮氷川神社

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

黒塚

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

源田出羽守資忠城跡同墓

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

源田出羽守資忠城跡同墓

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

源田出羽守資忠城跡同墓

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

源田出羽守資忠城跡同墓

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

源田出羽守資忠城跡同墓

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

源田出羽守資忠城跡同墓

源田出羽守資忠城跡同墓

東光寺

市谷八幡宮 市谷御門の外より別當ハ東圓寺と号を南紀

高野山金剛峯寺小属して古義の真言宗なり

本社祭神 應神天皇 軀中へ神跡あり相傳ふ多田満仲崇信あり一靈

佛の愛深明王なり 東ハ神功皇后 應神天皇の西ハ妃大神 天皇の御孫君

神鎮座 稻荷祠 稻荷と稱せ其来由信まらざる故ふころり世俗茶三

神の産子ハ毎歳正月三の酉茶を飲む眼疾と患ふる者ハ一七日又三七日と日教と

社記曰文明年間太田持資江戶城擁護のため相州鶴岡の八幡

大神を勧請し山林及び神田若干を附して東圓寺を創建

を山号と稻嶺といふ此地より稻荷の社あり地主の神と又自親松推考此

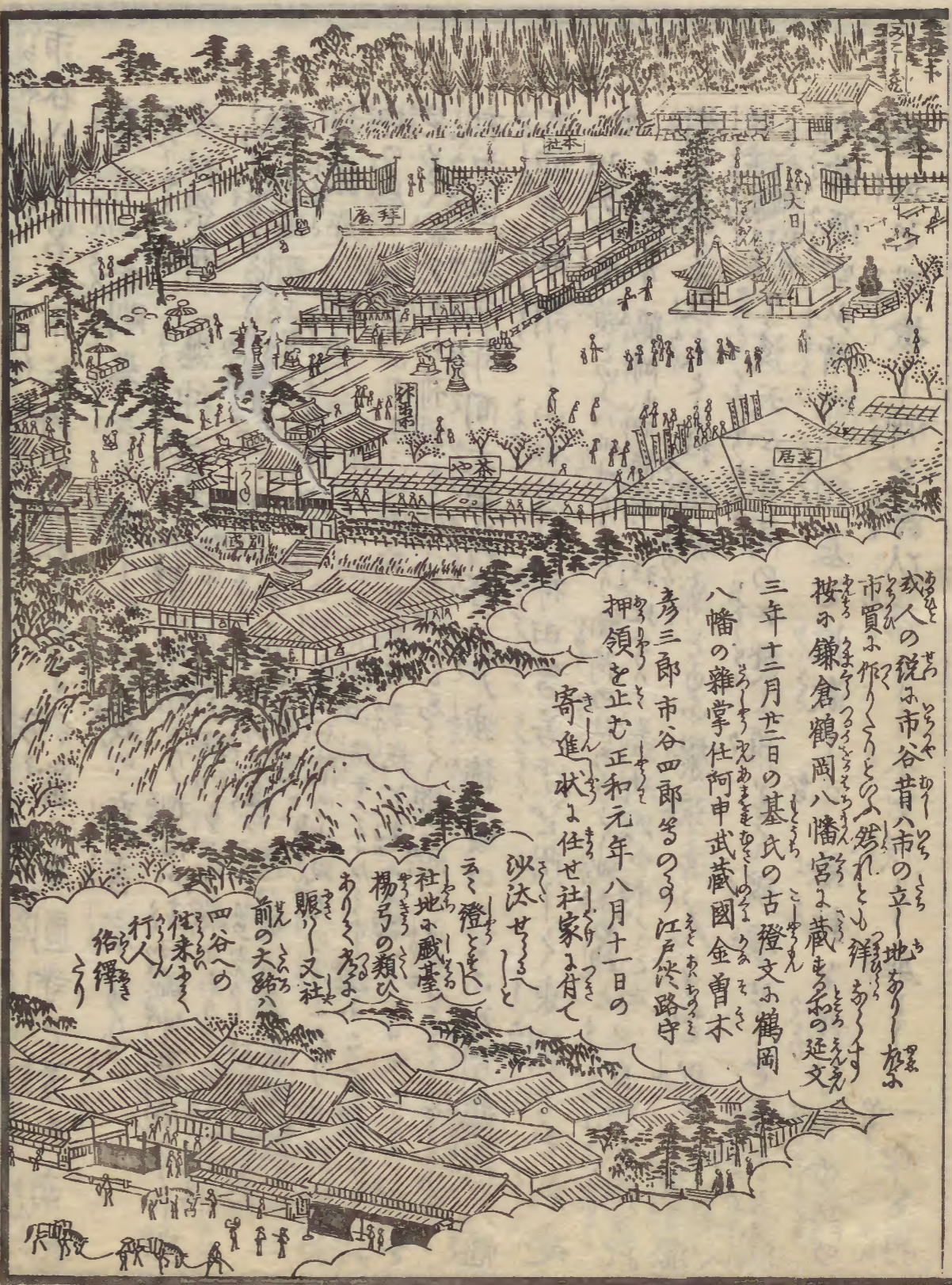
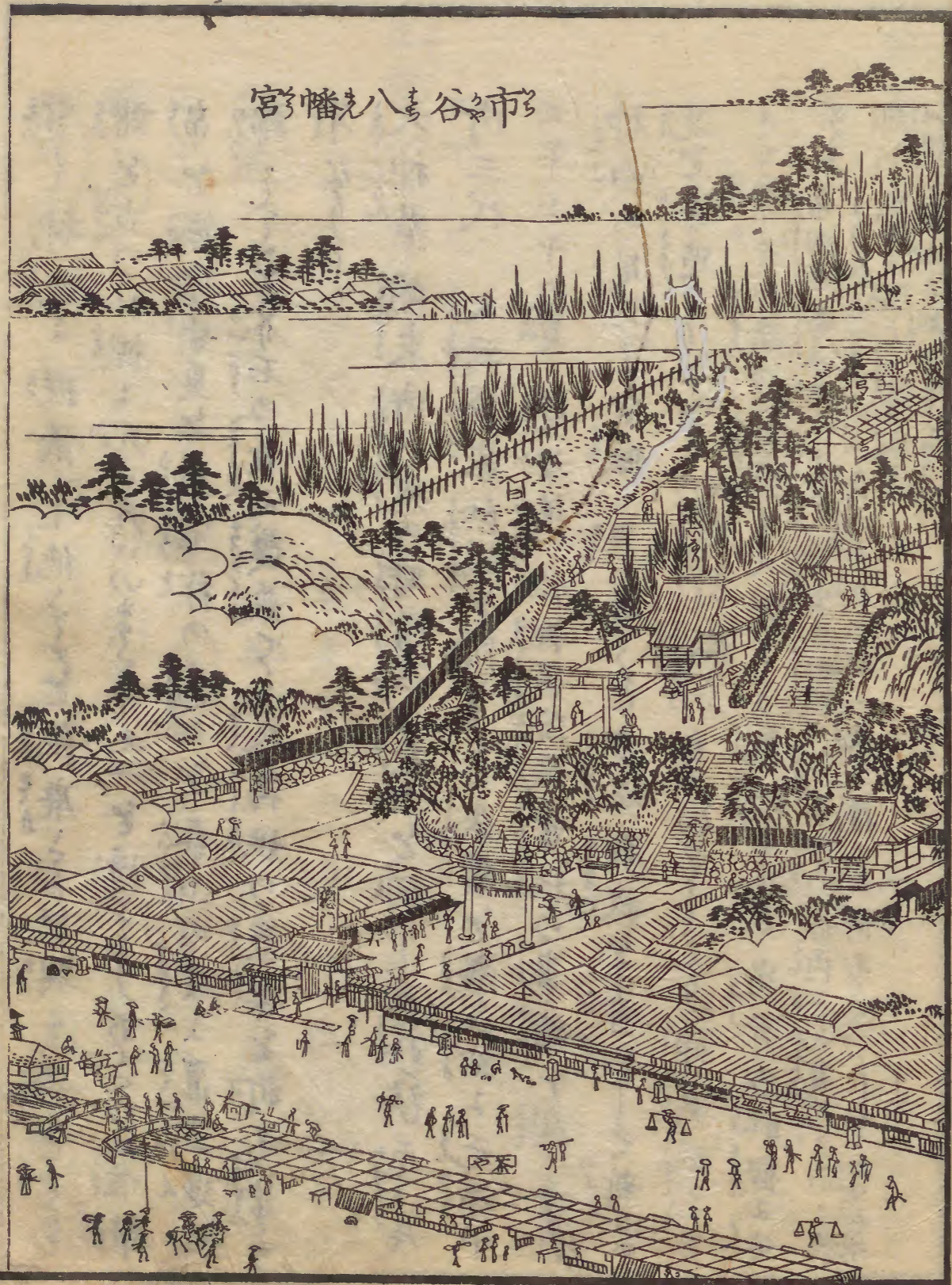
樹を栽す社本と社壇城廓との繁榮ありんを祝を土俗道灌

枝葉繁茂と平後天正年間の兵燹より破壊せしを慶長年間

別當源空必僧都此類基と憤激し己う餘鉢を傾け百歩許の

遺址と點檢し神を結ひ檐と木を伐り扉と一字を再

市谷八幡宮



或人の説く市谷昔八市の立地あり
 市買ふ作りしりとの然れとも詳あり
 按鎌倉鶴岡八幡宮に蔵まる所の延文
 三年十二月廿日の基氏の古燈文に鶴岡
 八幡の雜掌任阿申武藏國金曾木
 彦三郎市谷四郎等ののり江戸路守
 押領を止む正和元年八月十一日の
 寄進状に任せ社家も有て
 沙汰せしむ
 云々燈文に
 社地の蔵庫
 楊弓の類ひ
 ありとあり
 賑々又社
 前の大路
 四谷への
 往來あり
 行人
 絡譯

宮一神殿は擬儀一絶々を継廢々を興也然も
諸を古の社觀は比まれハの十之一を得るありあつて唯幣
帛を捧げ染具を盛宝祚の萬々を泰山の安に置武運の
綿々々々を芥石の長に護兼て又萬姓の豊樂を祈るなる
取なり

大神君 關東河入城の時當社の来由を問ひしに
河三代 大将軍家社領を附せしを朱璽を賜ふ然も元祿十
五年壬午の夏 賢母後一位桂昌院殿當社の事蹟を聞しされ
神輿の足らざるを憾と思ひて黄金教杖を寄捨して新よ
是を奉造なりと云ふ 神輿全く備ふる 志のありしより 神威昭々と
して著く社殿の経営も又のり 輪煥として宿昔の社觀は倍
なり 南向亭茶話云く市谷八幡宮の旧地ハ市谷河門の内今大番所のあり
なり 北の方の向山角山本氏の邸の隅は榎の大樹ありこれあり寛永年
御今の地は遷しなり

稻荷山藥王寺

東光院と号し同所より西北の方河田窪より

新義の真言宗より大塚の護國寺に属せり閑山と澄覺

法印と号く本尊藥師如来の像ハ弘法大師天台四明の洞の

靈石を得て彫刻しあり靈像あり貞享の初須田氏

某當寺に安置なり 當寺昔ハ變濟院

稻荷祠 境内にあり相傳ハ太田道権の勸請なり此の市谷河門の

法神とせり 邊にありしと云ふ元和の頃當寺より三丁より北の方へ遷す後又此地へ

正覺山月桂寺

同所三丁を隔て西南の方あり濟家の禪林

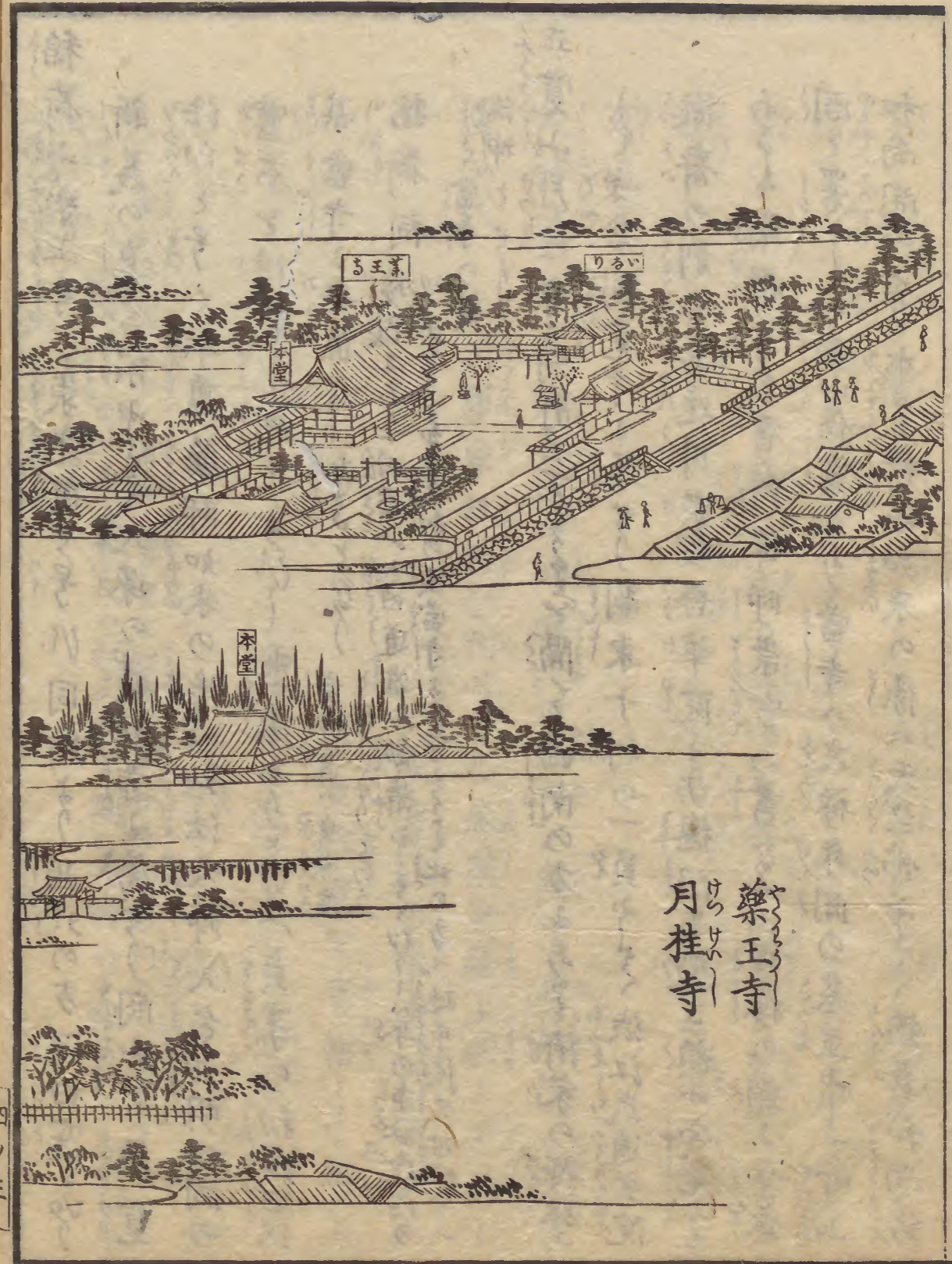
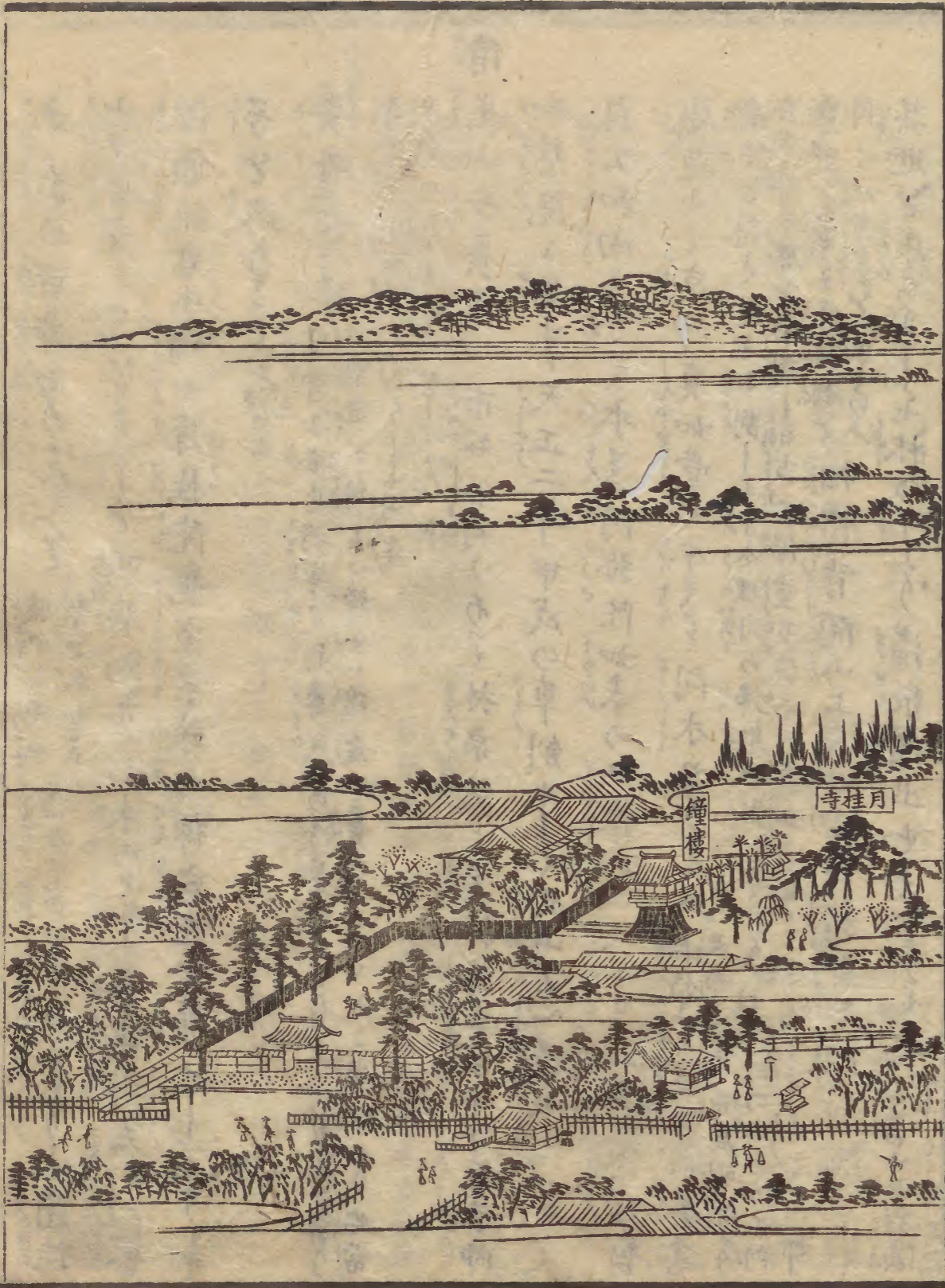
鎌倉圓覺寺に属せり關東十刹の一員なり法江氏通玄院

徹齋の創立喜連川家の香華院より總門は掲額ハ正覺山と

あり南禪寺の普濟禪師崇寛の書なり鐘樓の額ハ華應

閣と署せりハ香山侯書るなり當寺ハ文祿年間の基立ありて雪山

和尚閑山より本尊釋迦如来の像ハ天竺佛中より鑑真和尚携



薬王寺
月桂寺

来りし所の靈佛ありと云ふ
山平安寺と号けりしと明暦元年し木のとき喜連川左衛門督
源頼純君の嫡女月挂院龍室宗珠大禪定尼と葬せしより寺
号と改むると云ふ

安産寶珠 當寺よ安を將軍足利尊氏公の臺所を所持ありしとき
此靈珠と拜する婦女ハ難産の憂かりしとき大ニ崇敬せり始當
寺と平安寺と号けりしも出産

清光山安養寺

市谷谷町ありし清泉院と号けり浄土宗中々京師

知恩院ハ屬す天正二年甲戌の草創中々岡山と心蓮社深養上人

貞公和尚と号く本々阿弥陀如来の立像ハ三尺三寸あり惠心僧都

彫造せり京師真如堂の本と云ふ同本なりとの事
相傳天長年間慈覺

靈木を得て是と打割り木理自ら佛髻の形とせり
大師江州苗鹿明神あり

其地と求らるる林の下より清泉涌出せり云々
市谷富士見坂其
旧地中々今尾陽

公館の内 又傍よ小き洞あり中より一疋の白狐頭をゆき深養

上人に見え恭禮せり如く依り靈地なりとの事推知り其地の主

島田氏某よ乞得り其地ハ梵宇と建せり
明暦二年丙申此年

稻荷祠 境内ハ方治元年正月朔日の夜白狐の老翁住侶秀養上人の夢に

上人を見え語り白狐ありと直に稻荷明神ハ勸請せり又頃此地ハ宇田

國宗と俗間火防稻荷と稱せり
此神の如獲より火災を免れり

八幡宮 同く境内あり雲州の尼子伊豫守經久城内の鎮守ハ崇めりしと故あり

造立せり後月輪殿下兼実公の家ハ修久城の鎮守と云ふ

當寺ハ後覺僧都の持傳り法性寺の後光佛やハ浴の壬生寺同木の地蔵

七寶山藥王寺

同所西南の方より四丁半を隔り黄檗派

の禪林中に山城宇治の萬福寺ハ屬す昔ハ真言宗の古藍あり

中古大ニ衰廢し終ニ草庵の形となりしと元祿の頃

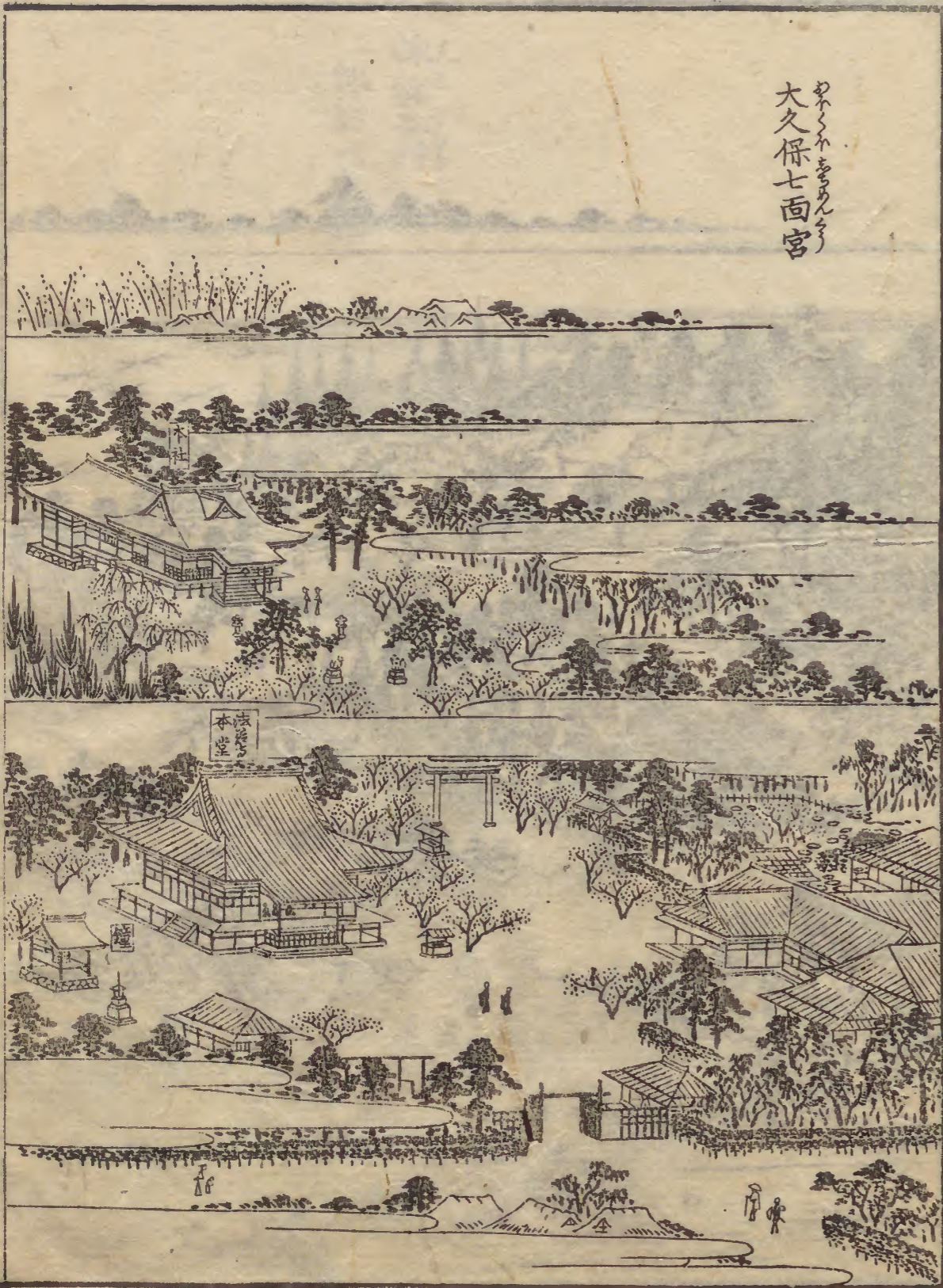
雲禪師與復せりしとき
凌雲和尚ハ信州の産あり武田典厩の女の腰に

海音院中々剃髮し凌黄檗とある江戶に於て所々草庵を築き諸曹洞宗

の寺院とせんを謀ると云ふ寺院を新建せりハ官禁ゆき



大窪天満宮
 社壇西向入左
 西向としひ又も
 東の天神と社を
 ともも東の来由
 ありては境内
 もとより此邊あり



大久保七面宮

七面大明神社 同東の隣日蓮宗春時山法善寺に安置す祭礼を
 典綿てんめんに急いそぎぎすす

一木薬師如来 同境内に数置を曰ハ赤坂一木の地に立せし行基菩薩創建
 大窪天満宮 大窪にあり此地の鎮守とす祭禮ハ六月廿五日なり別
 當ハ梅松山大聖院と号して聖護院宮の直末本山派の江戸役所
 中ノ大先達より當社を世よ來の天神或ハ西向の天神とも称せり
 社壇西に向ふ云ふより相傳ハ安貞年間梅尾明恵上人の勸請やと
 明慶覚運等は是を奉祀を後又太田道灌神田を寄附す然るに
 天正年間兵燹小かゝると烏有とあり頃を神躰溪間の櫻の枝に
 移り止りし其本と瑞現樓と号く此時青山氏某郷人と共謀りて
 祠を經營も聖護院宮道晃法親王東國下向の時大僧都元信
 とて當社の別當たりむろこ地々寝廟漸備り四時の祭

諏訪谷村
諏訪明神社





大久保の映山紅ハ
 弥生の末以盛るハ
 長丈餘のりの教株
 わりと其紅艶と愛
 すもの輩こそ小群遊を
 花形微妙とひとくも
 叢り閑く枝莖と蔽ひ
 さらば満庭紅と灌
 う如く夕陽映しと
 錦繡の林はるは
 此辺の壯観
 ありん

自證院





九月十三日より十九日に至り誦経說法あり尊影八日護上人の
 作との相傳ふ此七面宮ハ江戸の地ニ七面宮を勸請するの最初
 一々往古駿州大久保ニ三澤氏某勸請を萬治年間當寺へ移し
 或人云三澤氏ハ小次郎政廣と云從州の人なり後駿河國富士郡大鹿村
 院法性日弘 或ハ云延寶年間甲州身延山より移す境內櫻樹
 多くありて弥生の盛をとり一時の奇觀とせ
 寛文三年より此神前より
 常陸續編をとりて永世不絶む
 鎮護山自證院 同所西の方道より右側あり
 号は天台宗なり東叡山ニ属せり尾州亜相先友卿の沔簾中
 千代姫君の沔母堂自證院殿光山曉桂大姊沔苦提の乃小閑創
 せし精舎なり本多ハ阿弥陀如来閑山と日須上人と号は當寺始也
 日蓮宗より本理山自證寺と唱へし元文年間故ありて天台
 宗に改めし當寺をせしり寺と字は諸堂宇悉く種々此節
 ある木を集めて造立しし衆人よく奇異なりとす因り

柏木邑
右衛門
櫻

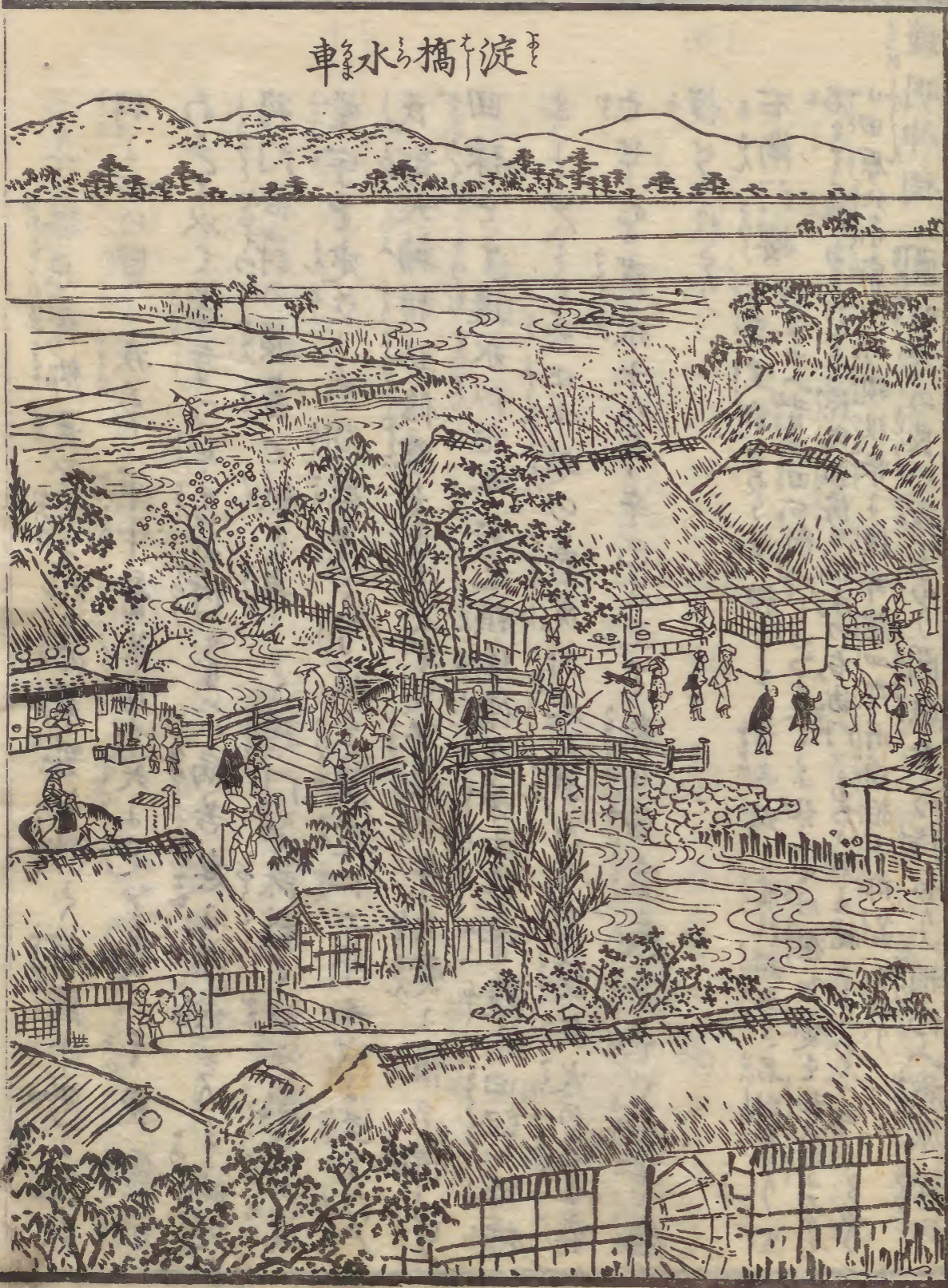


此林あり蜘蛛の井とのけり當寺の境内あり来由ハ誌書に堪へず
 小略を背ハ山林ハ櫻多し由諸書に記されども多くハ枯
 失せ今絶小古木二三株存せるのみ

紅葉山西迎寺 同異の方二町を隔て四谷北寺町あり浄土
 宗中て増上寺ハ属を往古太田持資の臣伏見勘七といふ人の
 草創なりといふ曰ハ御城中紅葉山の地ありて天正の後此
 地ハ移せといふ本寺阿弥陀如来開山ハ儀蓮社仁譽上人存公
 和尚と号す

醫光山圓照寺 瑠璃光院と号ハ柏木村ありと真言宗也
 田端の興樂寺ハ属を本寺薬師如来の像ハ行基大士の作股士ハ
 日光月光の二井なり又左右の壇上ハ十二神将の像を安置相傳ハ
 醍醐帝の御宇理源大師の法弟筑波の貞宗僧都此像を此地ハ
 安置しなるといふ兼平二年壬辰平将門威と東関ハ振入天慶

淀橋の水車



淀川ハ成子と
 中野との間に
 けり大橋
 小橋ありて橋
 より此方水車
 回轉す此方水
 淀川ハ準へ
 淀橋と名
 付てあり
 台命ありし
 あり名とを
 とり大橋の
 下と流す
 神田の
 上水
 あり

三年藤原秀郷是を亡さんう為軍勢を帥く當國中野に至る
時右の臂は疾あり軍中醫菜なく大は是を憂ふ夜靈示
あつと以て當寺の本も祈り病苦忽ち平愈せり時又
將門征討の願書と献き果しく將門を誅戮と故に凱陣の後
堂宇と建立しく圓照寺と号し其後建仁二年壬戌に至り江戸
民部大輔頼助修營あつと弘安八年兵燹は罹り佛宇
回祿とす後永仁元年癸巳頼瑜僧正茅宇と普覆十日記と修補
まといとも天正中越の景虎此地は戦ひ一頃復兵火の爲に廢
亡せしを寛永十八年辛巳に至り春日局官裁を乞て重く修
復せられり

右衛門櫻 當寺堂前あり單辨やう芳香殊に勝れ類なき名樹なり里
名原北条家の所領後帳は徳部惣四郎所領柏木前苦
圓照寺の良の方あり圓照寺の持あり相傳ふ藤原秀郷
鎧明神祠

將門を誅戮し凱陣の後將門の鎧を此地に埋藏し上は禿倉を
建く鎧明神と稱せし社前は兜松と稱する古松あり是も其
兜を埋し印と云

淀橋 成子宿と中野村との間架を大小二橋あり此方

水車あり昔 大將軍家此地は伊放鷹の頂山城の淀に準擬此

橋を淀橋と唱へし旨 上意あり因り号すとすとのり
和名抄は武蔵國豊島郡に餘戸とす村あり此地は豊島郡と多磨郡の中間を占む
あつりへあり餘戸橋と唱へりといふは是れとも是非をたす
旧名は面影の橋姿見すの橋なるも呼りしとす

十二所権現社 淀橋の南角苦村あり祭神紀州熊野権現と同一
本郷村成願禪寺奉祀の宮なり社記は云應永年間鈴木莊司
重邦の後裔鈴木九郎某あり人あり紀州藤代に住りし流落
し此中野の地に移り住す熊野権現ハ産土神とあり宅の辺の
丘陵を圍みしく小祠を営む信深く然り九郎或時北總葛



石人



熊野の十二所
 権現社
 世人誤く
 十二所と
 以て遊観
 多し

其二 熊野の龍



西の市小飼の疲馬を賣り價一貫文を得て歸路に臨み
 浅草に至り其得る所の錢の借を解て悉く大觀錢あり
 九郎心裏小切あり即觀音堂に詣り錢を宝前に
 奉り身を空しく歸り夫より後幸福を均し
 其家大に富となり故に應永十年癸亥社を再興し更めて
 十二所の伊神を勧請しなり田園等若干を附て教世を歴り
 後荒廢はれし神燈光跡は祭奠常々闕とす猶感應の
 速あるを以て村民恐怖し遂に享保の頃官府に訴て成願寺
 奉祀の宮とすありあり己降神供嚴重に祭祀懈ら
 ず九月廿一日を祭祀の辰とす

多寶山成願禪寺 同所上水川を隔て西の方同一川端に臨みて
 本郷村あり曹洞派の禪刹にして相州田原村香雲寺に屬す
 當寺八角塔十二所権現宮の別當なり本寺釋迦如来の像に聖徳



太子の真作ありとの前の十二所権現の社記に載る所の鈴木九郎
某本國紀州を以て其妻と共に此中野の地に移り住たり其後
幸福を得て其家富栄えりこれと宿因あり一人の娘
俄に死して蛇形を顯はせり春屋禪師
相州國本の最勝の法化に依て
畜身を解脱し上天を以て得たり
十二所権現宮の沙手洗池と蛇池と
号すとの時春屋禪師の眷
るふ於て父母頻に菩提心を發し法喜
せし法服今當寺に傳ふ
受戒して自ら正蓮と改む又居宅を壞ちて精舎と爲し女の
法名正觀の文字を以て其寺号とす
女の法名を真寔正觀禪女と
號し永祿二年小田原北條家
の所領没後は島津又次郎との人の所領の内は中野内正觀寺との寺号と注し
たる當寺の寺ありて永祿の頃迄は正觀寺と稱し其後其寺に到りて成
寺と改む諸堂あり三層の塔と造立し生涯優婆塞を勤行し
遂に永亨十二年庚申の歲終とす
三層塔ハ今中野の通り道あり
右あり其の條下とす
境内の塔屋敷と稱す地あり其の條下とす當寺
其後文明八年丙申中野より
春屋禪師より四世川庵宗鼎和尚當寺に董席して傳燈成

挑く法嗣今は連綿して徳門に掲げらる多寶山の額本堂に掲ぐる
成願禪寺の四字ハ雪峯和尚の筆なり

中野長者正蓮墳墓 同境内叢林の中あり南基鈴木九郎の墓あり其石
武州多摩郡中野の中正觀寺との某師の棟札は朝日長者昌蓮と記し

中野 渡橋の西とす 豊島郡と多摩郡の郡界とす 此地ハ多摩郡小
属す武蔵野の中央ありて其の條下とす 此條家の所領後
帳ハ太田新六郎知行の中ハ中野内阿佐ヶ谷又中野大場源七郎分とあり地と
海に加ふ

北國記行 中野の地ハ平重俊との條下に
ありて其の條下に
ありて其の條下に
ありて其の條下に
ありて其の條下に

中野七塔 今其所在を以て其の條下に
ありて其の條下に
ありて其の條下に
ありて其の條下に

とそ里諺ハ中野長者昌蓮佛小供養の爲高田より大窪迄此
間ハ百八員の塚を築くと云傳ふ 此の高田百八塚の條下と
應照せんとす

中野塔



其類のものあり又中野の通り右側叢林の中に
 三層の塔あり七塔の一なり傳へ云中野長者鈴木九郎正蓮
 建ふ中野昔成願寺の境ありと後世今の地に移り
 今日如来と名する所昔の成願寺の地なり
 婦の肖像と稱せしものと安せり

明正山宝仙寺 無動院と号し寺領あり古義の真言宗にて同
 西の方右側あり良辨僧都開基なりと云傳ふ本寺弘法大師
 等身の像あり願行の作なり中興開山を聖永和尚と号し往古
 大刹中々此地より二十町を北の方阿佐谷の地あり一
 足利の代に至り今の地に移すたりされと大永の頃兵燹に罹り
 佛殿僧坊悉く焦土とあり因る其頃の日記も廢亡たりと云
 開創の時世を詳し境內普門院不動の靈像を安置を
 良辨僧都の作とも或願行の作ありとも



中野
寶仙寺

當寺の享保十四年
交趾國より貢獻
せられたる別象の
枯骨あり



馴象之枯骨 享保十三年戊申交趾國より鄭大成ある者廣

南に産する所の大象北牡二頭を率ゐる来て本邦に貢獻せ

大泥國より來りてあり北象ハ 同年六月十三日長崎小着せ

同申年九月十日長崎小着て覽せり 翌十四年己酉三月十三日崎陽と

十六日大坂に至り同二十日伏見より京花小入同二十八日 禁脔に朝

天覽と蒙りて 爵位ありし禁脔小赤入の例ありしを 獸類とせ

同五月二十五日江戸小迎へあり同二十七日營中へ於て 上覽あり

其後中野に象廐を建てる是と飼せられり二十餘年と歴る

寛延の頃斃せりとの事 當寺に存せしものハ 壯象の枯骨也

壯象七歳 總身灰色 頭の長さ二尺七寸 頭ハ併さり又顧る

長さ八四尺程 或ハ三尺 同圍一尺五寸 鼻の

肉爪ありてよく針と拾ひ芥子とつまむ水と飲酒と吸ふも又鼻を以て

時も鼻を以て捲入る一身の力皆悉く鼻あり起る物とせしむる先鼻を

以て地を柱とせり後わしとせり口ハ頰ハ牙の長一尺二寸程 或ハ二尺

眼の長さ三寸 或ハ二寸五分 形ハ蝙蝠の翅 又銀杏葉の形ハ似たり

長七尺四寸同圍一丈背の高さ五尺 或ハ五尺七寸 足の長さ二尺二寸同

圍一尺五寸 或三尺五寸圍二尺五寸とも有り 足の形ハ圓柱の如く

羊腸を下す小電の如く深き水を渡り捷く 性能人ハ馴るを意を 尾の長さ

解を故小象双々者其頭もわすれ 鉄釣を以て釣進退曲折左右まとい

三尺三寸 或ハ二尺七寸とも有り 牛尾ハ似たりとあり

北象 五歳 總身灰色 頭の長さ二尺五寸 鼻の長さ二尺八寸

胴の長さ五尺 同圍八尺六寸 背の高さ四尺七寸 或ハ四尺

程ありて其餘ハ壯象小等しとの事 此北象ハ長崎小ありて項斃し

飼料 一日の間ハ新菜二百斤 篠の葉百五十斤 青草百斤 芭蕉二株根を省く

大唐米八升 其内四分程ハ粥ハ焚く 冷し置き 是と飼湯水 一度ハ

饅頭五十 橙五十 九粒母三十 又折節大豆を煮冷し 飼ふあり 青草の中

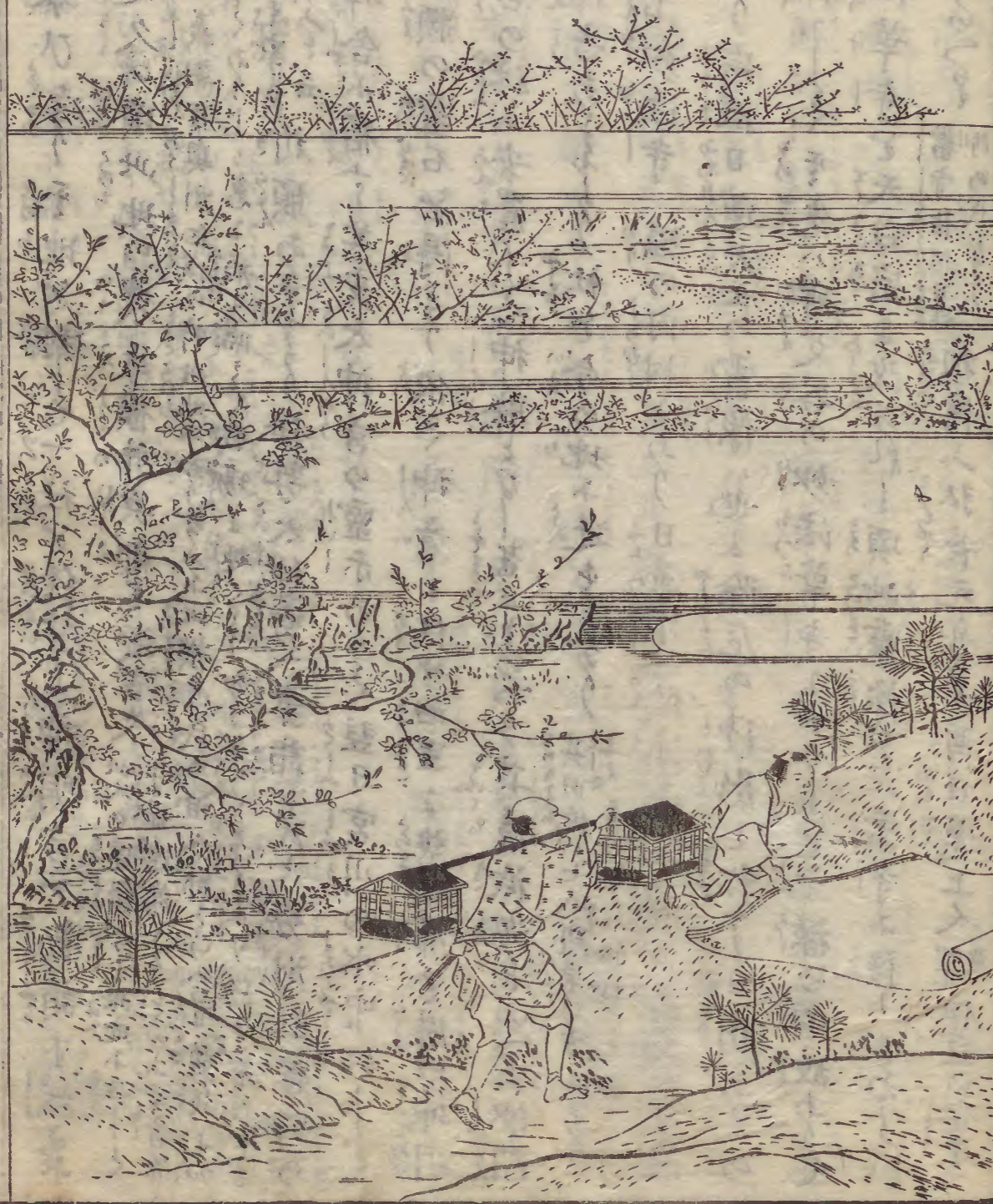
殊小俗間角力取草と稱し 是と好く食ふ 青草を折ちて粉と莖穂といふ

飼或ハ藁大根のこも食ふあり 又好んで酒と飲たり

時あれハひとの國あけつものも九年ふらうれき 御製

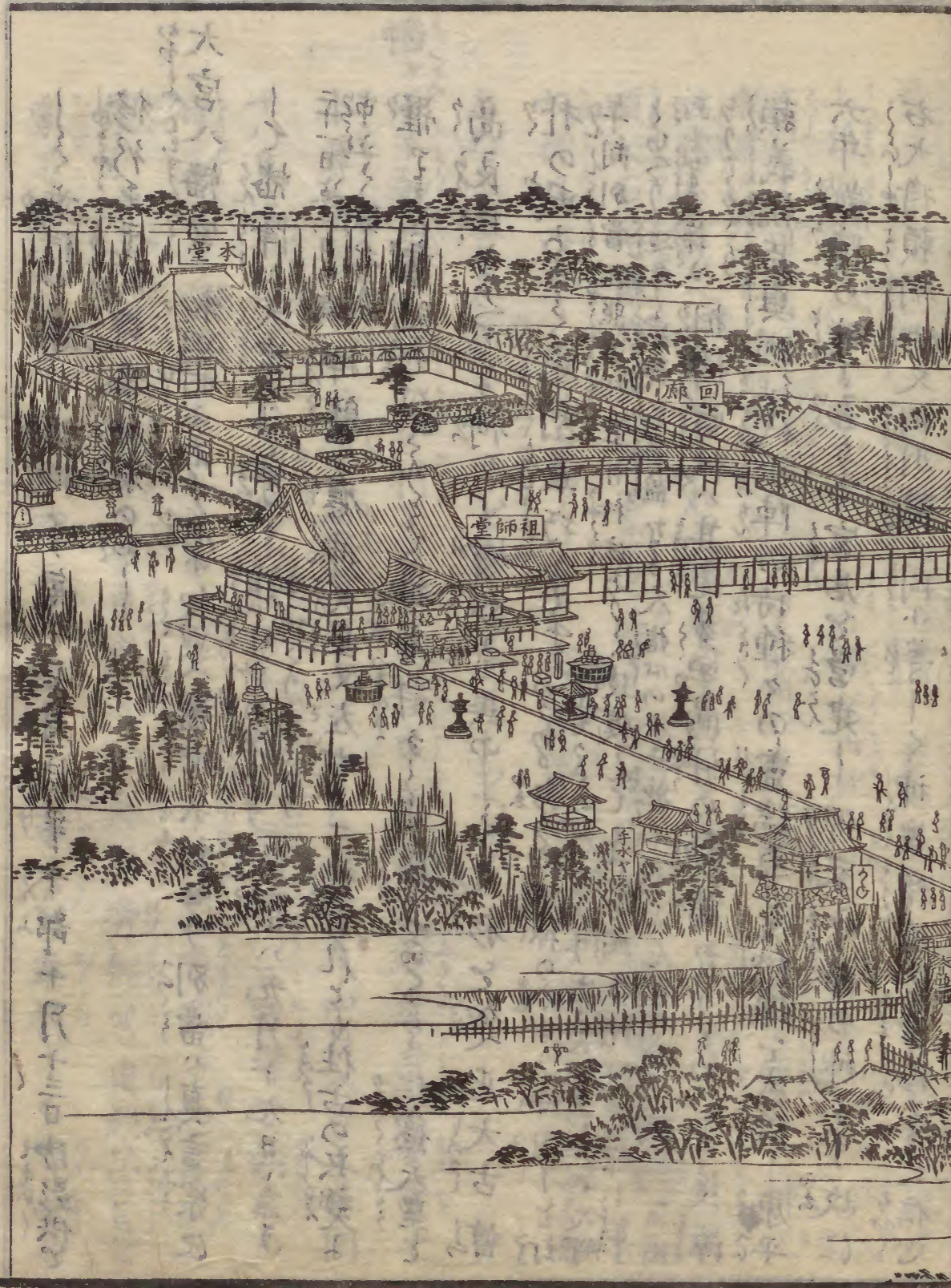
甘露集 けふきさし唐やまもとせきしけふハ幾ふ里ある 靈法元皇

桃園春興



慕ひまじりて地を封じ一社を徑營し神明宮と勸請す然るも
建久の頃此地の農氏横井兵部とて人此人の遠裔今も此地小住に
頼義朝臣奥州征伐の時此地に多し此横井氏の祖兵部といふ者隨兵よか
由家より折願ありて伊勢太神宮へ参詣せんと勢州能保野の
驛舎小宿す其夜太神宮の靈示ありて翌日宮川の水中に
一顆の靈石を得て依て神意を任せ旧里に携へ歸り件の神明
宮の社を安置し神躰となりて其後祇海とて以門
神告ありて社を今の地に移すあり其旧地は七八町東の方あり
土人をもて元伊勢と稱す
日圓山妙法寺 堀の内村あり日蓮宗一致派にして頗る盛大の寺院
たり宗祖日蓮大士の靈像ハ世に除厄の沙影と稱す日朗上人の
作なりて元先ハ碑文谷の妙法華寺ありて元祿の頃故ありて
法華寺と天台宗に改られ一頃此靈像をハ當寺に移すありて
當寺住侶日性 相傳ふ弘長元年辛酉日蓮上人四十伊豆の伊東へ
とて

配流せし日朗師隨身し其地に至らんとせりと此事協し
依其時上人の命あり日朗師ハ鎌倉由井の濱に止り日夜師の
赦免を祈請す或夕同一海上ゆく一箇の靈木を感得し日蓮
上人の真像を手刺し常仕へて怠らず此沙影ハ宗祖大師の
像と造るの権輿あり 諸天
感應の時至りて弘長三年癸亥五月赦免ありて日蓮上人
鎌倉に還るも一頃此像をて感悦まりて我心神今より
此木像よりしとて永く来際し延救護衆生の利益無窮かん
我既ハ四十二歳中て救を得し此木像ハ除厄の号を稱し
とて自ら點眼なりしあり
加持符 有信の章三七日の間此符を對し正念ハ唱題誦經しれハ寄願成就
或ハ家の柱に貼す故ハ世俗張符といふ相傳日蓮上人伊豆の伊東あり
多し靈應あり後日浪師是を傳りしより已降せし相兼せるとり
當寺ハ遙小都下を離れしとて靈驗著故ハ諸人遠を厭を



堀の内
妙法寺

當寺小安置の日蓮大士の
感應ハ乃小唐増多の
風雨寒暑とて都鄙
の貴賤日毎おこる
百度系曾片時絶る
る一法は七月の法華
千部會十月の會式
小八群系移麻の
如く駢圓玄法の
及ふよりの

歩行と運ひ渴仰す毎年七月法華千部十月十三日淨影供と
修初を千間群恭稻麻の如し

大宮八幡宮 和田村ふあり和八幡宮共称せり別當ハ真言宗に

一と幡降山大宮寺と号く昔中野の宝仙寺奉祠ありしあり例祭ハ九月十九日とす

二十一日迄三日の間 神躰 應神天皇又左右ふ二神あれとも往古の兵燹よ

罹りて舊記七ひりりて神名詳ありす疑わらるる 仁徳天皇と

高良臣ありて何とも靈妙奇異中一と文彩を加へて大古質

朴の風ありて彫刻最巧ありすつらあるありや元祿の末より神厨子を釘

物別當祐照法印一七日行法ありて後眞んてこれと開き神像と拜し天明

とより近年建部氏昌盛なり人信心の人ふ施しありんとも自ら神影辰國

画し神像と相傳當社ハ其先多田満仲の勸請なりとつて是後源

頼義朝臣奥州征代出陣の時種々の靈瑞ありて神像と感得一康平

六年凱陣の時より宮居と堂建し源家守護の神とす故に

右大将頼朝卿又相州鶴ヶ岡小等しく神履僧坊と重修ありて信心

最厚一昔ハ大社中社ハ麗々宮居あり然不足利將軍の世裁後此

上杉相模の北条と戦ふ頃上杉の興兵此地に屯し放火を此時神像は

大樹の下に道れありて別當眞順法印樹を焚く山中

社僧も四方へ分散しこれハ神躰の終ニ叢祠不安しなり一と天正の

頃大石信濃守當社の古きを尋く神宮を建る同十九年忝も

大神君此地に台駕をりこれ源家累代守護の靈神なりとつて

ありしをこれ新ハ神領を附しありとつて

幡ヶ谷不動明王 幡ヶ谷村にあり真言宗光明山莊嚴寺に安置を

本尊不動明王の像ハ智證大師の作なり毎年四月八日より同

十八日迄内拜せしむ相傳ハ往古智證大師江州三井寺を創建の

時彫刻の靈像なりとつて天慶年間平将門東國に在て逆威を

震ひ帝と惱しなるが平貞盛及び藤原秀郷等追討の宣旨を

蒙り東國に發向を平時三井寺より此本を奉持し陣中不



当社廣前の老松ハ嬌々として雲を拂ひ數百歳の相と標せり白石先生も此松を賞して奥羽とて房総豆相赤海一路畿内濃尾の諸州あも未づる長松の多き証見ゆと新安子管小記されり又社前の大路ハ昔の鎌倉街道也今土人正用街と唱へり上る井戸ハ源金橋と名りのあもいふ人樹乃るなり
 旧録とあり

大宮八幡宮

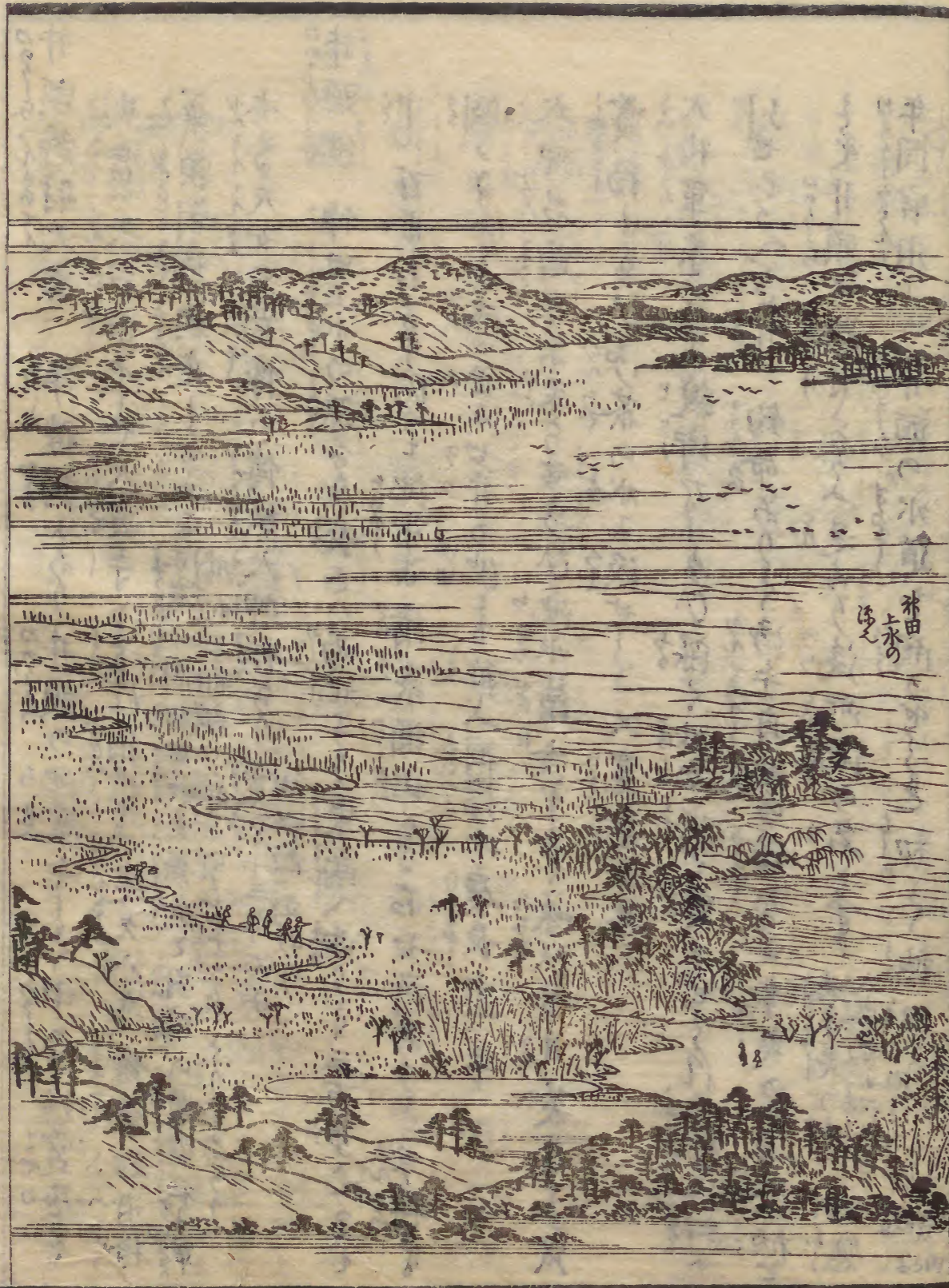




鞍懸松の大宮八幡宮の
馬場先の大落民家様
の外ありの齋茶として
繁茂せり根より一丈あり
上より一屈曲せるをよ
土人和田の曲り松と
呼べり相傳八幡を飾
義家相傳に及ぶ初
逆徒伝伐の
ひびね枝
鞍懸松
一丈あり
上より一
屈曲せる
をよ
土人和田
の曲り松
と
呼べり相
傳八幡を
飾
義家相傳
に及ぶ初
逆徒伝伐
の

二町年乃の傍
小古松一株あり
土人一尺松と唱ふ
昔八幡宮の一の
多井のり旧地
ありとのり

移し軍の勝利を祈誓せし同三年庚子果々將門を討
亡したりふより後此靈像を下野國小山郷へ遷し
永祿の頃武田信玄甲州に安座ししと又北条氏政奪ひ取
相州築井といふ所の寺院に入りしと竟天正十八年四海安靖
なるふ及んで當國多磨郡宅部の三光院に傳へありしと靈像の
應ありしを以て延享四年丁卯永く當寺に安置ししと
井口山慈宏寺 大宮前新田川越海道の右側あり日蓮宗なり
寛文中の草創開山八日賢上人と号し本寺に三室を安
當寺に安置の日蓮大士の像八日朗上人の作なり相傳弘長元年
辛酉五月十二日大士伊豆の伊東に滴せし朗師大士の別れを惜
まのせ靈像を得て大士の影像二軀を彫刻あり一尊は座像
法華寺ありし後堀の内法寺に安置す其二は立像なり當寺に安置す即
此靈像是なり旅行の艱相ありし世に光明木板立の影影とも稱し
大士鎌倉へ立帰るし其の後點眼ありしと



林田
上水の
湯



井頭池
井財天社

山成池

井頭辨財天宮 牟禮村あり井頭の池靈や中島に宮居を

別當八天台宗中々大盛寺と号し相傳ふ建久八年鎌倉右府將

軍頼朝卿創建しあり正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社に軍

本尊天女の靈像ハ傳教大師作り寛永十三年丙子

井頭池 神田上水の源あり長さハ西北より東南へ曲りて三百歩あり

中ハ百歩ありあり池中中ハ清泉涌出する所七所ありて旱魃

涸るまわし故世七井の池とも稱し相傳ふ慶長十一年

大神君適るふ至らせあり池水清冷や味ハの甘美なる

賞揚しあり伊茶の水は汲せり又寛永六年

大將軍家より渡所なるあり深く池水を愛せり大城の法許

引せらるる旨 鈞命ありて伊手自池の傍なる辛夷の樹ハ柄

とて井頭と彫付し是より後此池の名とす其辛夷の木ハ中興

年間官府より井頭の水道を開き初て神田より大盛寺に収蔵せ

上水の稱あり寛永八年辛未の夏池水濁りありと天海大僧正加持しあり

十五日より四月十五 伊揚枝の柳ハ聖天堂の後あり腰掛の卧竜化

藤今在所三ツ柳ハ神木と稱す西北の方北丘陵と今伊殿山と

の昔省耕の伊殿館あり跡わたりあり今ハ

繁生す樹木

此池ハ清泉や炎天や水の減きりて常々泌沸とて

湧出す其地最閑寂や池辺柳樹多く初夏の頃ハ

新葉黧くく陰をぬり浅翠嬌青碧空を蔽ふ似たり

金井橋 多磨川の上水坂兩岸の芝塘あり金井村に架す故小名

とす水源小川村より新橋の東北千川上水の掛口のあり九一里あり

何れも橋名ありて左右の兩岸九村に跨りて架すの橋大七テあり

此地の櫻花ハ享保年間或云元文郡官川崎某

台命と奉し和州吉野山坊より常州櫻川等の地より櫻の苗を



小い金の井の橋の春の景





芭蕉

あけく

あけく

あけく

あけく

あけく

春此

夜ハ



小金井橋ハ小金井邑の地不傍て
 流る所の玉川上水の素堀り
 架け故小此名あり岸を夾む
 桜花ハ数千株の梢は並々
 落英續約たり閑花の時
 橋上より眺望せんハ
 雪とちり雲とまらひて
 一月千里あは盡る際以
 ちて仍て都下此藩人
 遠と願きてまらざる遊賞
 まらざるのあはれ
 橋に酒と煙め
 菜と煮あ
 ぬ之店あり
 遊人或ハ
 悲し或ハ
 喜し

殖らるる中々其數九一萬余株ありしを
項_まて八年_ふ官_{かん}府_ふよりこれを殖_つせむと
あり今_{いま}ハ_ま教_{きょう}大_{だい}小_{せう}減_{げん}九_く三_{さん}百_{ひゃく}株_{くわ}ありあり
開_{ひら}初_{はつ}六_{ろく}十日_{じつ}目を満_み開_{かい}の期_きとす七十_{しちじゅう}日_{にち}目の頃_{ころ}ふ至_{いた}りてハ落_お花_{はな}を
最_も年_{とし}の寒_{ふゆ}暖_{あたたか}みより少_{すく}の遲_{おそ}速_{すみ}ハありとすも大_{おほ}方_{ほう}ハ違_{ちが}ハ
就_す中_{ちゆう}金_{きん}井_い橋_{はし}の辺_へを佳_よ境_{きやう}やしく爛_{らん}熾_し々_々多_{おほ}く
川_かの流_{なが}れと夾_{くわ}んで一目_{いちもく}千里_{せんり}実_{じつ}ハ前_{まへ}後_ご尽_つる際_{さい}とあり
遊_{あそ}へハと行_ゆく白_{はく}雲_{うん}の中_{ちゆう}ハあまうめく蓬_{ほう}壺_うの仙_{せん}臺_{たい}よ至_{いた}る
一_{いっ}ゆる最_も奇_き觀_{くわん}る者_{もの}ハ近_{きん}年_{ねん}都_と下_かの騷_{さう}人_{じん}韻_{いん}士_し遠_{えん}と厭_{いと}ハ
来_きて遊_{あそ}賞_{しょう}す

津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}社_{しゃ} 築_つ土_と銀_{ぎん}町_{ちやう}あり
宗_{しゆ}中_{ちゆう}善_{ぜん}龍_{りゆう}山_{さん}成_{じやう}就_{じゆう}院_{いん}と号_{ごう}に本_{ほん}地_ち佛_{ぶつ}ハ聖_{せい}觀_{くわん}音_{いん}傳_{でん}教_{きやう}大_{だい}師_し社_{しゃ}
作_{さく}なり相_{あひ}傳_{でん}み天_{てん}慶_{けい}三_{さん}年_{ねん}庚_{かう}子_し相_{さう}馬_ま將_{しやう}門_{もん}誅_{しゆ}せられ後_{のち}ハ首_{くび}級_{きやく}と
當_{あつ}國_{こく}江_え戸_こ平_{へい}川_{せん}の觀_{くわん}音_{いん}堂_{だう}へ移_{うつ}し是_{これ}を齋_{さい}く津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}と稱_{あや}す

文明_{ぶんめい}十年_{じゅうねん}戊_{つち}戌_{つち}太_{たい}田_{でん}道_{だう}灌_{かん}江_え戸_こ城_{じやう}の鎮_{ちん}守_{しゆ}と宮_{みや}社_{しゃ}伐_{はく}造_{ぞう}立_{りつ}
ありしを永_{えい}亨_{かう}記_き武_ぶ州_{しゆう}入_{にゅう}間_{かん}郡_{ぐん}川_{せん}越_{えつ}の城_{じやう}の乾_{けん}ハ氷_{ひやう}川_{せん}明_{めい}
神_{しん}の社_{しゃ}ありしを準_{じゆん}へ文_{ぶん}明_{めい}十年_{じゅうねん}戊_{つち}戌_{つち}六_{りく}月_{げつ}五_ご日_{にち}江_え戸_こ城_{じやう}の乾_{けん}ハ津_つ久_く戸_こ
明_{めい}神_{しん}と勸_{くわん}請_{しん}と云_いふ
江_え戸_こ秘_ひ子_しハ永_{えい}亨_{かう}記_きを引_ひきかきし又_{また}中_{ちゆう}古_こ治_ち乱_{らん}記_き
江_え戸_こ城_{じやう}を築_き一_{いっ}茶_{ちや}下_かハ津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}ハ氷_{ひやう}川_{せん}と同_{どう}弊_{へい}の由_{よし}なるハ素_そ盞_{さん}
鳴_{なり}尊_{そん}なりとあり

按_あし將_{しやう}門_{もん}の靈_{れい}ハ後_{のち}ハ合_あ祭_{さい}しと云_いふ南_{なん}向_{きやう}亭_{てい}茶_{ちや}話_わと云_いふ筑_{つく}戸_こ田_{でん}ハ次_じ戸_こと
書_しを往_{わう}古_こハ江_え戸_こ明_{めい}神_{しん}と云_いふ江_え戸_こ城_{じやう}の鎮_{ちん}守_{しゆ}と云_いふ江_えと次_じと字_じ形_{けい}相_あ似_にと云_いふ
此_{こゝ}の頃_{ころ}より謬_{まう}と云_いふ永_{えい}亨_{かう}記_きを引_ひきかきし又_{また}中_{ちゆう}古_こ治_ち乱_{らん}記_き
土_{つち}記_きハ載_{さい}せり不_ふの江_え戸_こ神_{しん}社_{しゃ}ありし祭_{さい}祭_{さい}神_{しん}もまゝ素_そ盞_{さん}鳴_{なり}尊_{そん}と云_いふ武_ぶ藏_{ざう}國_{こく}風_{ふう}
土_{つち}記_きハ合_あせり不_ふの江_え戸_こ神_{しん}社_{しゃ}の祭_{さい}下_か江_え戸_この神_{しん}社_{しゃ}の考_{かう}へと附_つせりてしあり
當_{あつ}社_{しゃ}ハ往_{わう}古_こ上_{じやう}平_{へい}川_{せん}の地_ちありしを天_{てん}正_{しやう}七_{しち}年_{ねん}己_こ卯_{まう}田_{でん}安_{あん}の地_ちハ遷_{せん}座_ざ又_{また}
元_{げん}和_わ二_に年_{ねん}丙_{へい}辰_{ちん}今_{いま}の地_ちへ移_{うつ}し
座_ざの頃_{ころ}ハ田_{でん}安_{あん}明_{めい}神_{しん}と唱_なへしとあり祭_{さい}禮_{らい}ハ九_く月_{げつ}十_{じゅう}五_ご日_{にち}なり
築_{つく}土_と八_{はち}幡_{ばん}宮_{みや} 津_つ久_く戸_こ明_{めい}神_{しん}の宮_{みや}居_いハ並_{なら}地_ち主_{しゆ}の神_{しん}中_{ちゆう}ハ別_{べつ}當_{たう}ハ天_{てん}台_{たい}





膳喜洛陽千歲
 光瑞烟祥氣入
 望昌三條橋影
 遊魚聚十字街
 頭征馬性宕岳
 風來吹袂過敵
 山雲度引紳長
 金湯城上立鷓
 尾九陌不消逐
 墨方山崎垂加



宗松靈山無量寺と号す

祭神應神天皇神功皇后仲哀天皇以上三座なり相傳ふ 嵯峨

天皇の御宇此地一人の老翁住す常は八幡宮を多信す或時當

社の御神此翁夢中よ託し永く此地に跡を垂たまふと云ふ

老翁奇異の思を記す其翌日一松樹の上瑞雲靉靄して旌旗の

めくあふと見る 松雲山の号 時一羽の白鳩来りて同樹間に

やゝ郷人翁う靈夢を聞く直に此樹下瑞籬を繞ら

八幡宮と崇む遙の後慈覚大師東國遊化の頃傳教大師彫造

しつゝ所の阿弥陀如来と本地佛と一小祠を径始す後文明

年間江戸の城主上杉朝興社壇を修飾し此地の産土神や

す 或書よつゝ當社の地は往古管領上杉時氏の壘の旧跡

逢坂 或大坂 牛込船河原町の西今輕子坂と呼ぶは是なり 此坂下は溝

揚場町と稱ふを此坂を船の通りありて此所より荷と揚ぐは里諺よ云昔

奈良帝の御宇小野美佐吾と号する人武藏守を任して此國へ下る

至頃此とらよ玄及藤といひてそあかきつゝさ女ありたり

美佐吾とひとめてとまむむろへり月日経て美佐吾は 帝は

みより奈良の都よ上り若草山の麓に住たり程もかくまもり

ぬす時美佐吾ひたり我死ん後ハか多し亡骸と武藏の國よ

おろりさねろろ住る辺へ葬るゝとて境もろろ隔る

ぬすりおまはとて大和の國なり若草山の麓に葬つて西と

武藏野とわつけをあましく塚もむしり塚とをひひるり

しとわり 此地の古老傳へ云く塚は大納言兼 武藏守長岑安世卿の古墳なりと

り身まくりぬるもさうさうりしり戀慕ひて神あはれ

佛あちうひあけくを歎き悲しよある夜夢のさしあ

たまハ此所おきりしり美佐吾よあひぬあり

かろぬ姿多しうはれとわほえてさしり

つらふ姿乃消せむれ美佐吾身まらりぬるをありて
此のつらの淵に身を投て空にありてなりとありてあり後
此のつらと逢坂といふことあり神楽坂の西の小坂と土俗幽曇坂といふことあり恐らくは
逢坂と混しりて又地名とあり坂といふ女の名とあり

神楽坂 同所牛込の御門より外の坂といふ坂の半腹右側小高

田穴八幡の旅所あり祭礼の時ハ神輿此所より渡りせらるる

其時神楽を奏するは此号ありといふ或云津久土明神田安の地より
今の処へ遷座の時此坂にて神楽

常小神楽の音此坂遊きとありといふ或云津久土明神田安の地より
今の処へ遷座の時此坂にて神楽

若宮八幡宮 同所若宮坂の上若宮町あり或云津久土明神田安の地より
今の処へ遷座の時此坂にて神楽

宗普門院と号は相傳ふ文治五年の秋右大将頼朝卿奥州の

泰衡を征伐せんうゑ小發向を時宿願ありて奥州平治の後

當社と宮を鎌倉鶴岡の若宮八幡宮を移し其の地を

文明年間太田道灌江戸城鎮護の

為當社と再興し社壇を江戸城小相對せしむるあり

牛頭山行元寺 千手院と号は同所神楽坂の上寺町道より右に

あり天台宗東叡山小属を本尊千手觀音大士の像ハ惠心僧

都の作なり襟懸の本
今之牛込御門の辺ありて神楽坂中門の旧跡あり慈覚大師と号し山とせしむ

破壊を項のものとして古き大般若經を秘藏せりと云昔門内左右小南天樹多

本尊縁起云右大将頼朝卿石橋山合戦の後安房上總を歴く

下徳國より此國に打越る頃前より通夜を夜の後頼朝

卿自ら此靈像を襟にかけしを源家の武運を閑くと見え

あみ後果して天下を一統せしめしより頼朝襟懸の靈像と

稱へしと云く

牛込城址 同所藁店の上の方至旧地ありと云傳ふ天文の頃牛込宮内

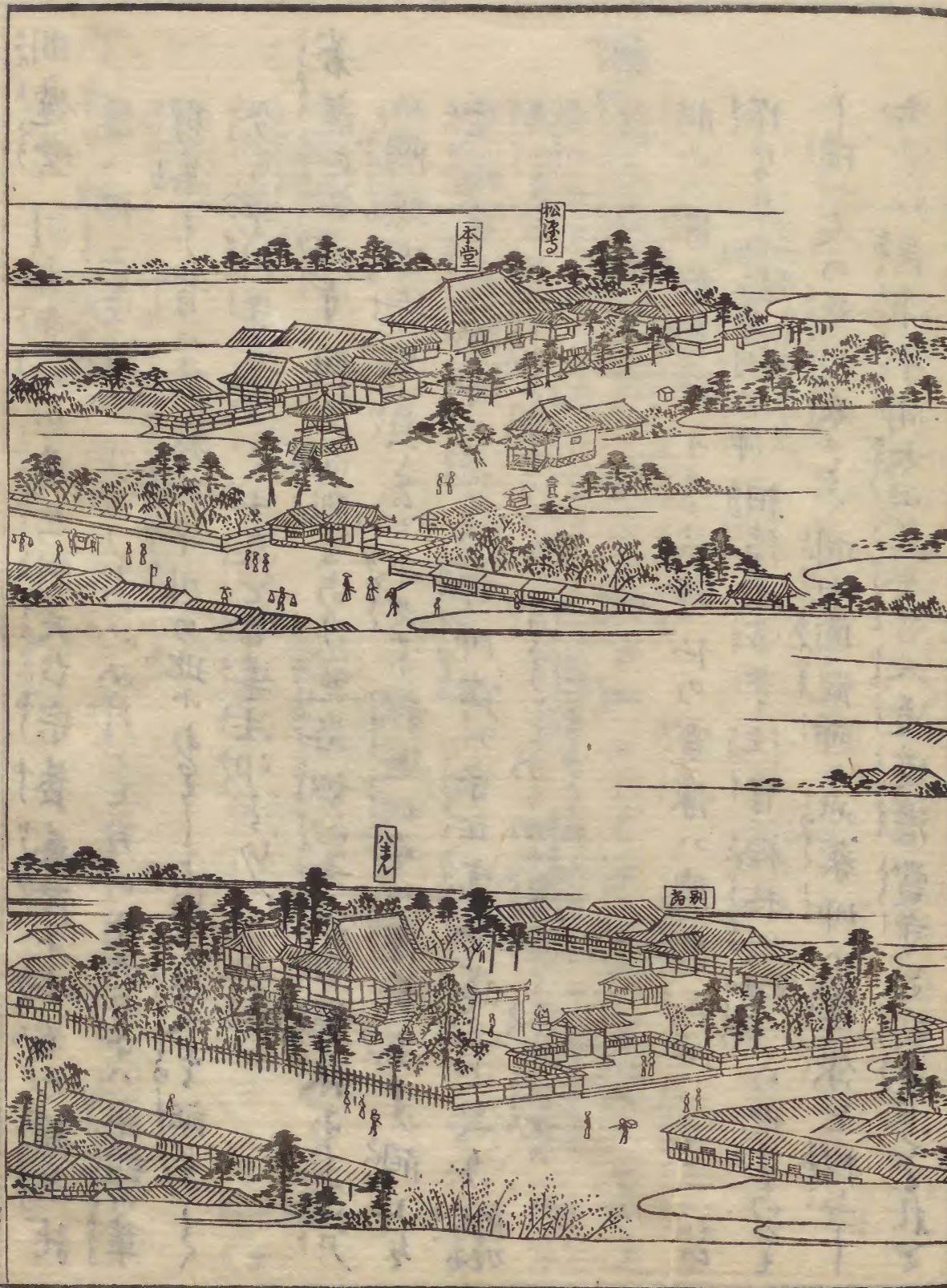
少輔勝行此地に住し城壘の跡ありといふ

神樂坂



毎日の
家の
多き
多き
の
人
市
を
あ
ら
わ
す
る





松源寺
行元寺
若宮八幡宮

閻魔堂 同所寺町の通左側天台宗養善院小安置を閻魔王
像ハ佛工運慶の作なりとのみ正月と七月の十六日ハ恭詣の輩
群集す昔ハ赤城内平川の地ハありとのひはくそ証と
今も平川寺と号く中興と智導法印とのみ

蒼龍山松源寺 同所向側あり花洛妙心寺派の禪林ハして江戸
の觸頭四ヶ寺の一員とのみ本寺ハ釋迦如来の像を安す閑山
靈鑑普照禪師と号ハ禪師諱ハ宗立字を蓬山と号り
蓬山とのみ昔境内ハ猿とつあき置り今も世ハ猿寺と号く旧地ハ
番町なりとのみ觀音堂ハ弘法大師の作なり

藥 龍山正藏院 同所南の方横寺町あり天台宗東嶺山ハ屬屯
閑山ハ圓觀律師本寺茶師仏の靈像ハ傳教大師一カ三礼の
作なり 如來と稱せり 相傳ハ當寺往昔梅林坂御城の地ハあり
一頃一人の草刈來り閑山圓觀師ハ此藥師の靈像を授与
去りぬ長祿年間太田左金吾入道道灌當寺を創建してこれを

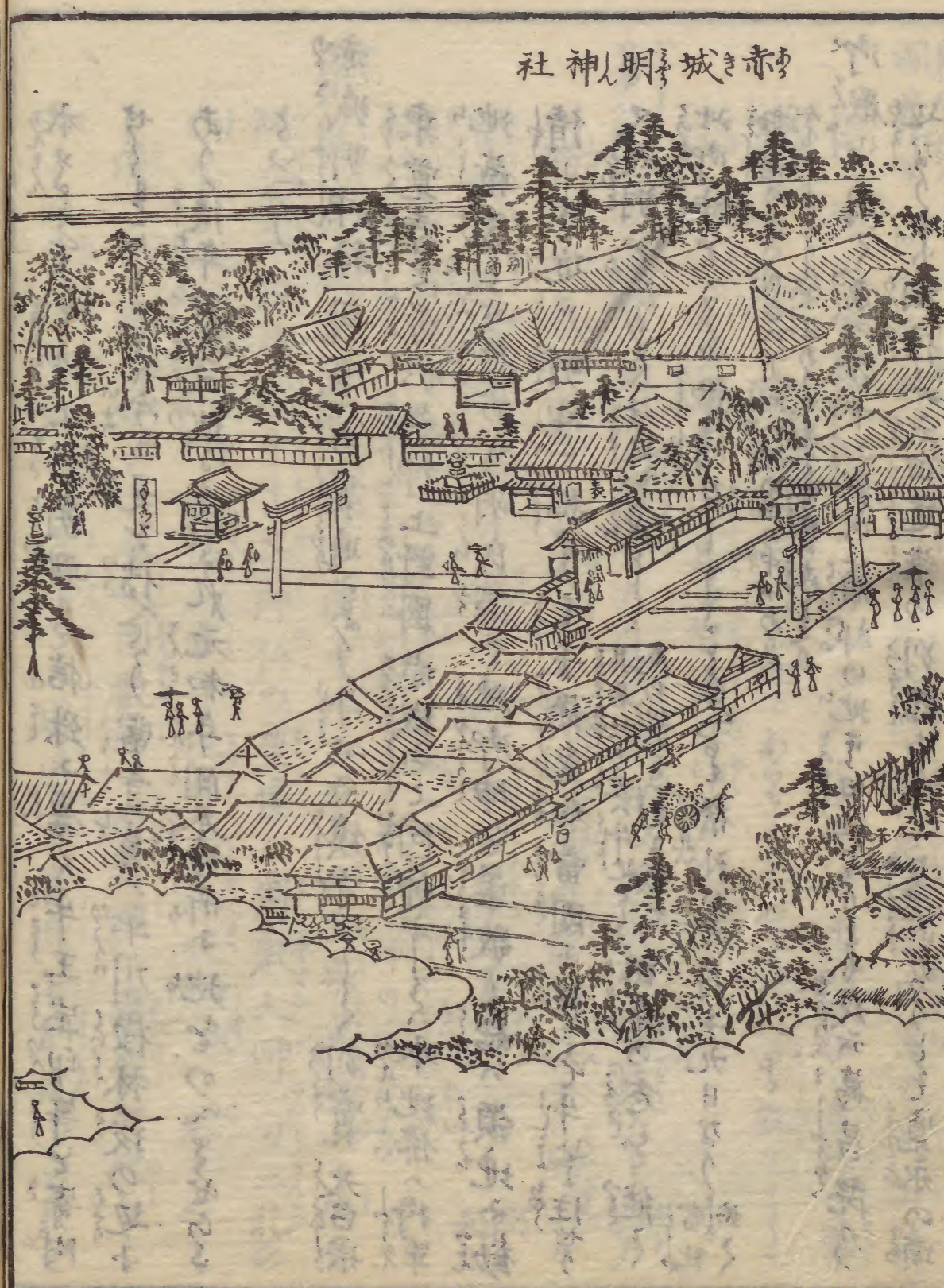
本寺とす 其後上杉朝興も信殊ハ厚く牛王宝印等を寄附
せりまたりとのみ今も是を傳へり當寺昔ハ平川梅林坂の辺ハ
あり後年田安の地よりこれ元和年間今の所ハ地をかへせらる
と号り

赤城明神社 同所北の裏通あり牛込の鎮守也 別當ハ天台宗
東覺寺と号ハ祭神上野國赤城山と同神也 本地佛ハ將軍
地藏と云往古大胡氏深く此御神を崇敬 始ハ領地ハ勸
請 一ハ近戸明神と稱す 子孫重泰當國ハ移りて牛込ハ住せり
又大胡を改め牛込を氏と 其居住の地ハ牛込 祖先の志を継ぐ
此御神と号ハ勸請 一ハ牛込と号ハ祭礼ハ九月十九日なり 當社

勸請の地ハ目白の下瀬口領の田の中ハあり
今も對して此木立あり是を赤城の森と号り
赤城山 同く東の方中山家の藩邸の地ハ旧址なりとのみ或云萬昌院乃
辺なりとのみ相傳ハ太田道灌の別館あり 舊跡なりとのみ寛永の頃



赤城神明社



大將軍家沙故鷹の時の沙儲としく假ふ建置ありし沙殿の地なりとのへき

陰涼山濟松寺 同所榎町あり 京師妙心寺派の禪窟なり 昔ハ

寺より論番 本より釋迦如来を安んず 開山ハ心印正傳禪師開基ハ素

心尼なり 此尼ハ牧野兵部少輔政玄の女也 春日局と共に

大將軍家昵近の侍女なり 當寺ハ沙佛殿あり 芳心院法別當

を務む 此寺ハ芳心尼 沙佛殿の前の池を鳳凰池と號く 靈龜水と

芳心院の地はあり 寛永の頃ハ沙茶の水ハ掬さるあり

開山塔ハ養春院是を預るま 僧坊六宇 徑堂鐘樓庫裡浴

室等巍々然としく軒を連ね輪煥なり 三佛堂の額ハ天下陰涼とあり 隨自意院宮一品准后公啟法

親王の真筆なり

豊後小侍従大友義延舊館之地 同寺院を指く 其旧跡とを相傳へ

文祿二年 大友義延朝鮮征伐の役ハ補せしめても武備急ありと

以て豊臣大閥罪しく當國へ遷し 此地ハ藝居せしむ 此地即舊

跡なりとのへき 南向茶話云 大友左兵衛督義統文祿年間朝鮮征伐の役ハ

義延此地ハ住む 義延ハ後四位小叙侍従小任也 豊後小侍従と稱し 其

慶長五年 開原一戦の後 常州筑波郡小於く 三千五百石の地を賜り 其

早世も又江戸鹿子とのへき 草紙ハ義乘と 其後大橋立慶此地ハ居住せし

望海無然とのへき 寛永十七年の事實を記せし 沙祐筆大橋

高田天満宮の祠あり 記せり

大友松 同所天神町の東ハ續き 沙持筒組高野氏の地ハありと云

昔大友義延ハ別荘の庭前の松あり 其後田祿ハ亡し 其地

其地の主旧跡を失むるを歎き 若木を栽られ 其地ハ大友

家の傳説ハ大友宗五郎義延武州へ遷る頃 後ひ来り 其の家臣 吉良傳次郎 某

宮作せし 教寄屋の前の松中 陰涼山濟松寺の名ハ此松より 號けりとのへき

大友稻荷祠 同所ハあり 是も義延の勸請とす 傳

一樹山宗拍寺 濟松寺向の横小路ハあり 日蓮宗京師頂妙寺ハ屬

せり 開山ハ日意上人と号し 本より釋迦如来の像を傳教大師の



作なり相傳し延暦年間傳教大師桓武天皇の詔をまり鎮
護國家除災延命の爲ふ巖山小於之此靈像を彫造ありしと
なり然ふ元龜二年辛未織田信長公巖山を放火せし時仏閣
僧坊悉く灰燼す其時護持の人ありし此本寺斗をハ取平と
恙なりしと後水尾帝深く佛乘小帰し多きを以て是を拜
しあひ又宸翰を賜ひく釋迦牟尼佛の号を添ふり日意
師此本寺を感得し當寺を闢く安置しなることく
雲居山宗恭寺同所辨財天町あり此地を土俗曹洞派の禪林小
しく駒込の吉祥寺小属を本寺釋迦如来脇士ハ文殊普賢なりと
開山と看榮稟閣和尚と号く徳門の額弟一義ハ心越禪師の筆
中門の額雲居山ハ岡良弼の書佛殿の額宗恭寺の三字ハ崎
陽道采の書禪堂の額ハ黄檗悦山より相傳し當寺開基を
牛込宮内少輔藤原勝行と稱す弘治元年後五位下小住を法名を
参考院殿心外龍雲殿主と号す

當寺小墳鎮守府將軍武蔵守秀郷の後胤大胡重俊上野國大胡
墓ありかこ住す則大胡太郎と稱せり重行小建ひく此牛込小移り住す土人牛込殿と
より或人云家系小大胡太郎成行十代の孫同彦次郎重治上州大胡なり武
州牛込小移り住す十代の孫重行の嫡男なり重行ハ宮内少輔と云ふ法名ハ
と別天文十二年卒北条氏康の麾下屬し武州牛込及今井赤坂の
又當寺小墓あり櫻田比々谷或人云其家系其余下徳の堀切千葉等の地を領し牛
込小住す永祿北条家の分限帳小江戸牛込比々谷本郷葛西の堀切等の地大胡氏
込其餘高田落合関口小日向富塚小石川の金杉市谷田安櫻田天文十三年甲辰
朝草同金杉等の地名を所領の中注し加せり按朝草ハ淺草と云ふ
父重行の菩提を吊んる當寺を創建し寺田を寄附し父重行
の法号を採り寺の号小呼へると同二十四年乙卯後五位下小任す
其時氏康よ告く大胡を改り其采邑の名の牛込とりて氏とを天正
十八
年北条氏滅亡の後勝行の子勝重天正十九年辛卯始て大神君ハ調しなりハ後
勝幕下より或人云勝行の子ハ俊重といふ慶長十五年始り三代大將軍を拜し
兩儀ハ當家ハ属しなること
大胡重行同勝行父子之墓境内卯塔の中あり一基の石碑ハ父子の法号
ありハ其碑を刻せ或人云大高季明の書ありと

高田本松寺
願満祖師堂



否やとあるや 榮の梅 閑山看榮和尚

三明山千手院 同所七軒寺町あり真言宗閑山ハ舜倚法印と

号也本尊千手觀音の像ハ沙長八寸九分脇士多門持國の二

天サ小赤楠檀ゆゑ毘首羯磨天の作なりと之を相傳ふ往古

越後國安巨山小ありて天正年間豊大閣秀吉公柴田勝家と

戦ふ及んで蒲生氏郷の臣殿池玄蕃といふ人是を感得を既

中て元和年間蒲生家敗壞の後殿池ハ下總國佐倉の城主

堀田家ニ仕入故ありて富永氏某傳來一後當寺ニ安置一

とりのといふ

正定山幸國寺 同所原町小あり日蓮宗小湊の誕生寺小属を

閑山を日觀上人と号は當寺小安置の日蓮大士の像ハ世小布引の

御影と称せり傳云文永七年庚午宗祖大士鎌倉小在一頃房總

の國郡数月疫瀉流行せりて小於く人民大士小救を求む乃大士

若菜島
神明宮

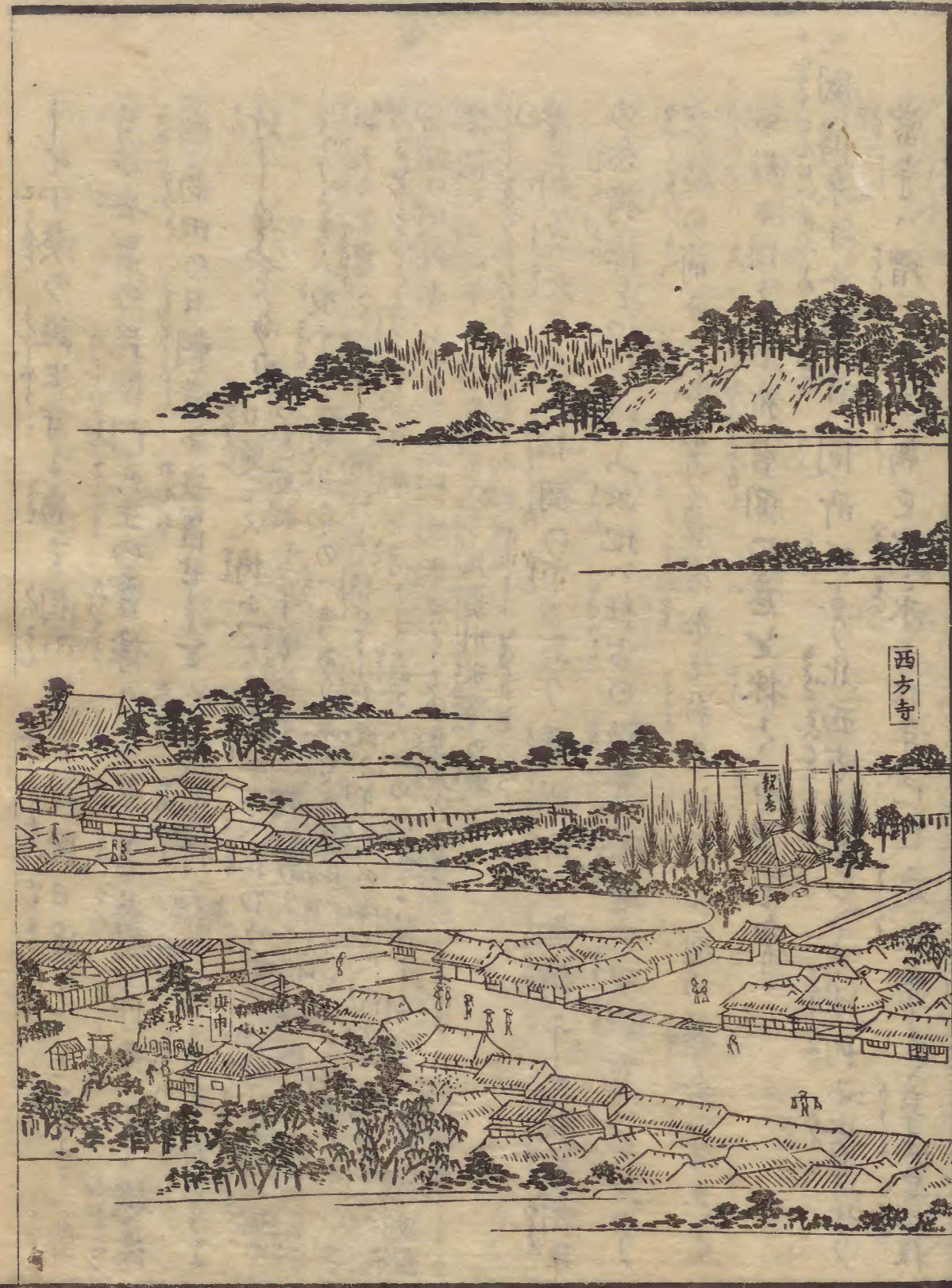


佛工をしく自の像を造らぬ白布に経題を書きて平浄手
 掛るひ囑して曰く則是日蓮なりと云く依る此靈像を其地
 移すや疫疾の患へ頓小退きしを故小此靈像を小湊の誕生
 寺小安置したりし又宗門流布の爲寛永七年庚午二月
 十六日當寺より移しまわしとて當寺ハ加藤肥後守清正
 の関基ゆて宗祖の靈像ハ寒暖に應し衣服を改むる
 池上小同しきとのみ 故あり其衣服ハ年々
 阿部氏某調進すやあり

神明宮 早稲田大田圃あり祭神天照春日八幡三座あり同所
 赤城明神の別當等覺寺より兼帯を祭礼ハ九月十六日あり鎮
 座の年歴詳ありとて 天和二年同所榎町よりつととのみ今大田番
 榎林氏某の宅地ハ早田地ありとて

赤城明神舊地 同所田畔小川ハ傍てあり大胡氏初く赤城明神と
 勸請せし地なり故小祭礼の日ハ神輿を此地小渡し あり

本妙山感通寺 高田穴八幡の馬場下南の坂上あり日蓮宗に



一々小湊の誕生寺に属す開山を寂陽院日建上人と号す當
寺小安置の毘沙門天王の靈像ハ行基菩薩の作なり越後
國高田の日朝寺小安置せしと越後以將忠禪の淨母君こよ
近しゆあり日蓮上人傳ふに宗祖上人弘むる所の法華經の功德
祖大士と導く寺僧吉祥是と奇と直大士の法化は淨足泥土小穢れぬ
高田の日朝寺これあり上杉謙信深くこの靈徳を敬し家小相傳せし
謙信天正六年卒を依り後奥州米澤の城ハ
摩利支天の像ハ松樹の下あり頼朝卿の勸請やと頼義朝臣
の念持佛といひは此地ハ往古の鎌倉海道の旧跡ありと
客殿の前ハ一松あり普聞松と稱を法花弘通の精舎なりと
妙經ハ因く名稱普聞の意を採く名つとあり
三國傳來千手觀音 同所坂より北西方寺とへる淨刹小安置せり
當寺ハ増上寺ニ属を寛永十六年己巳建立やと亨譽貞義

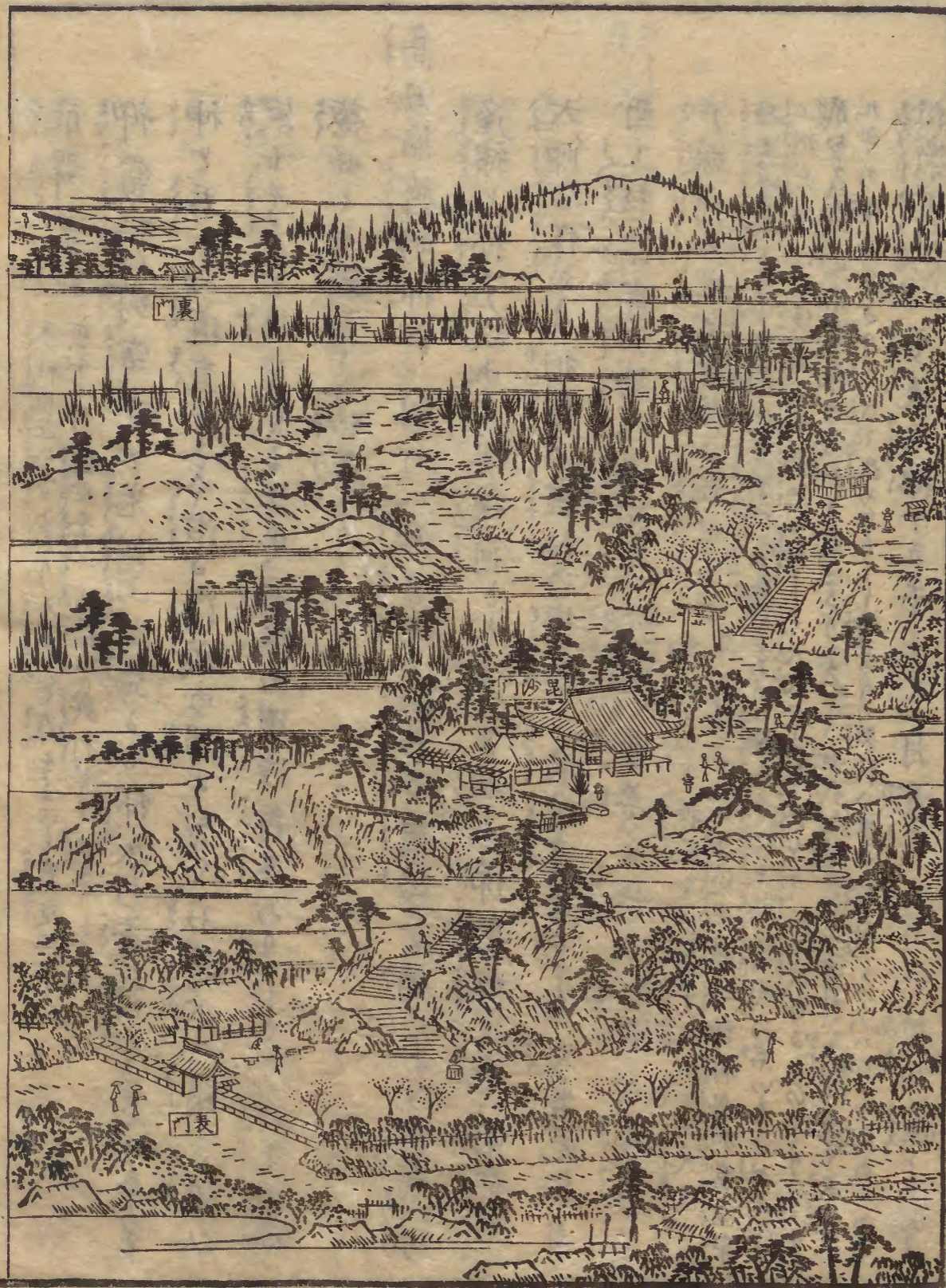
和尚開山より相傳ふ往古弘法大師唐土青龍寺の惠果阿
闍梨より授与せられ中印土の靈佛ありとより大師帰朝の
後高野山の塔小安置ありと彼山麓小住る流水といはる沙門
感得し武州浅草小移しなりと故ありと開山貞義和尚當
寺小遷しせるとなり故ハ三國傳來の稱ありといへる
自樂居士墓 境内卵塔の地あり備前國の産中く齡を保つ既百十
四歳なり常小壯年の人の見ゆ文字を書きしを得たり
人小與へしとなり室曆三年癸酉十二月三日没す
龜鶴山誓願寺 同北隣る易行院と号し淨土宗中く靈巖寺
小属を本尊五智如來の像ハ各長八尺開山水食本尊上人秋風誓願
和尚の作なり常念佛の道場中く清淨無塵の佛域なり當
寺昔ハ少の庵室やと前小松樹四株を植く方位を定め
方松庵といひたりと今四五十步南の方道と隔て向ふの側ハ
庚申堂あり是則昔の方松庵の地なり



謀る此山小素より古松二株あり石頂山鳩来つゝ日々小此松の
枝上遊ふを以て靈瑞と假ふ八幡大神の小祠を營々々々
件の松樹を神木とす南向亭云く此地八田早稻田邑の地中島との此地一
静柗津六共備との富氏あり往古北条家小仕へ
土ゆく聖人の持信へ此地昔ハ阿弥陀山と呼来りありされと其
山林ありありしと所以と知者なきなり同十八年辛巳の夏中野室仙寺秀雄法
印の會下小威盛院良昌とつる沙門あり周防國の産中々山口八
幡の氏人なり幼くも利家の侍根本氏某小仕へ復本氏殿と後十
九歳の年遊せし高野山小登室性院の法印春山の弟
刊とあり一紀の行法をとけく三十一歳の時より諸國依り此沙門を迎へ
御行の志を發しを問ふの奇特ありハせりとの社僧とつむ故小同年の秋八月三日草庵を結んとして山の腰と
切開時小此川の靈窟を得りその窟中石上小金銅の阿弥陀の
靈像一軀たせり伊長三寺八幡宮の本地ありありも山の号に相
應むを以て奇ありと又此日將軍家
御令嗣 嚴有公 伊誕生ありハ衆益を靈威を志す江戶名所記小云
同年八月九日

社頭の鏡一町四方小繩張り一平地と開き本社とハ神木の松の本小延ハ八重垣と結
まゝ一町四方小繩張り一平地と開き本社とハ神木の松の本小延ハ八重垣と結
同十四日遷宮の式を執りす松平新五左衛門尉と引供り山崎の
幕を張式正の心的を建する神射法をいハと小此の阿某子十二歳の
勤むとつ後元禄年間今の宮居を造営あり結構備と
南向亭茶話ハ嚴有公殊小當社を崇敬あり伊宿願のり満ありの後當社を
營せり裏門ハ内藤豊前守普賢堂ハ松平左近將監伊手水垣ハ増山兵衛必捕
御昌院殿ハ再興あり又江府神社略記及ハ和漢三才圖會等の書小元禄年中
若宮八幡宮 本社の前 左あり

東照大権現 同所小並つせの毎毎年四月
氷室明神祠 本社小相對す盛徳とハ二字と彫る額を掲ぐ祭神大己貴命
三年正月二日金澤の住人渡辺氏是善靈妻の應あり此神を祭る直良此神小
祈願ハ平愈も同七年の頃始て鎮座せしむと云
光松 別當寺と本社との間坂の支路ハ南向亭云く此地昔ハ松樹繁茂せし山林
ゆる中一株の松あり暗夜ハ折れし瑞光を現せ故に松樹を稱し光り松と云
と又寛永十三年始に當社ハ幡宮御請の項此樹上ハ山鳩来り遊びと云云
放生池 石階の下あり山の腰より清泉あり其の奇持あり
出現所 坂の半腰絶壁小あり往古の靈窟の旧址なり近頃造り地小出現堂と
影け九品佛の中下品上生の阿弥陀の徳を安置せし堂宇あり今を



高田稻荷
毘沙門堂
富士山
神泉
守宮池
寶泉寺



能舞臺址 校社の左の方あり今礎を存するの寛延三年

抑當社の別當寺を光松山と稱すも神木の奇特ありてあり

神と君との道直中しく治る伊代の濁りあり石清水の清き誓ひ

取ももくを思われる殊更元祿の頃伊再興ありしより和光の神

徳日く小願ましく昭然たり

高田稻荷明神社 同所八幡宮より右の方道路を隔てあり戸塚村の

産神と稱す故小戸塚稻荷とも呼ぶるも本地佛聖觀世音八南都徳一

大師の作り相傳ふ當社の権興ハ最久遠なりし文龜元年辛

酉上杉治部少輔入道朝良 南向亭 靈夢よ依る宮居を再興し

戸塚村の地と社領小附せり 當社古き棟札を蔵す文小云く天文十九

坊秀室大工与左衛門同左衛門五郎とあり按小半主膳時國再興別當室泉

上州大胡氏の後裔武州半主膳時國再興別當室泉

九年の癸卯牛込氏改めりし時あり然れ此小時國の自ら別の人あり

後元祿十五年壬午四月靈告ありし櫃の控より

靈泉涌出す眼疾と患る者此靈水を以て洗ふと奇

驗あり仍土俗當社とす水稻荷とも稱せり毎年二月初午日

奉射あり祭祀ハ九月九日なり

神泉 社前櫃の控より

毘沙門堂 同境内小高き丘の上あり本尊毘沙門天王の靈像々

慈覺大師の作り武藏守藤原秀郷の念持佛ありとあり

相傳ふ慈覺大師江州唐崎の濱に至る川の笛と拾ひ得あり

内小長一寸八分の多門天の靈像あり大師隨喜しく自是を念

持佛とす仁壽年間旧里下野國小下り佐野の大慈寺に入りあり

長二尺五寸の多門天像を彫刻あり先の靈像を胎中筆の

まぬせ大慈寺に安置ありしと天慶中武藏守秀郷平將門を征

伐の後此地に移しあり 紫の一本とつる冊子小秀郷將門を退治せ

毘沙門天境の上現ありと自ら拜殿小掲ふ所の多聞天の額ハ長崎

模し彫むとあり寺は不異なり

高田
天満宮

此
地
昔
は
花
園
と
い
は
れ
た
と
い
ふ
話
が
あ
る
と
い
ふ
話
が
あ
る

高田
天満宮



